

タカシ・ファンタジー

zaq2

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

タカシへ 元気ですか？

いま、異世界転移申請書(?)を書いています。

ごめんね、申請書を書くのは初めてなので上手く書けなくて、素敵なスキル?というのを頂ける様なので、この前テレビで観たものを書いておきます。

これで、タカシも立派に活躍できると思います。

【あらすじ:ここから】カーチャンのプレゼント(?)によって、平穏とは異なる世界へと迷い込まされる、○○の玩具と化したタカシの巻き込まれファンタジー話【ここまで】

# 目次

EP0 : カーチャンからのプレゼント	
( , A、 ) : 壊れちまえよ、こんな世界	1
……	1
( , A、 ) : やつば壊れちまえよ、こんな世界……	10
( , A、 ) : 誰か、疫病神を消す方法を教えて下さい。	18
( , A、 ) : これ、何てイジメ? ご褒美でもネーよ……	29
( , A、 ) : 厄病神(クソ)野郎は、糞(クソ)でも喰らってろや……	37
EP1 : スごくフあんな、いせかいファン	

タジー	
( , A、 ) : いったい自分が何したっていうんだよ……	45
( , A、 ) : やつば無理……	52
( , A、 ) : モウ、オウチ、カエシテ……	58
( , A、 ) : ファンタジー世界というか、B級洋画の世界かな?	62
( , A、 ) : アト、"色々"ト、ダイジョウブナノ?	67
( , A、 ) : エッ? 事案? コレ事案ダヨネ? タイーホ案件? エッ?	72
EP2 : 底版いせかいファンタジー	

( A、:) :チガウ！断じて違う!!オレ

はソウイウ趣味はない!!!

( A、:) :アーアーキコエナイ、キコ

エナイツタラキコエナイ

( A ) :...

ウワア・・・ナイワア...

( A、:) :ドン引くわな...自分でも

引くわ...

( A、:) :エツ?アツ?外国の人!?

フ、フ、フー・アー・ユー?

EP3. 0 :Hi日常ふあんたじい (初)

( A、:) :ウツ...コ、コレハ...ソウ”ト

ウトイ”...キツトソウ...ソレ以外無いハ

ズ... | 120

( A、:) :あー、今度はそういうパ

ティーンか... | 129

EP4 :お約束系?ふあんたじー

( A、:) :今度はお約束系ファンタ

ジーだったか... | 137

( A、:) :文字なのか、数字なのか、

記号でいいのか... | 144

( A、:) :S (すこし) F (ふしぎ)

な成分すら、走り過ぎて行つてね?

148

( A、:) :何か、話が重い...重すぎ

るぞ... | 157

( A、 ) …… | 164

EP5 : アヤカシふあんたじい

( A、 ) …… : 今度は、和風(そっち)

かあ… | 174

( A、 ) …… : とうか、一体ここどこよ

… | 179

( ( A ) ) …… : (筋肉痛で悶えている)

184

( A、 ) …… : それって、クーリング・オ

フスキますか? | 190

( A、 ) …… : また疫病神(アイツ)案件か

… | 196

EP6 . 1 : 秘・日常ふあんたじい (中)

( A、 ) …… : 終わったんじやないの?

続けるの? 本当に? | 204

( A、 ) …… : まさか、そんなコト、アル

ハズハ… | 209

EP7 : ほらあ… : ファンタジー?

( A 。 …… ) …… : 帰ってからも、疲れと

れない… | 218

( A、 ) …… : ”細胞(バイオ)”が”

危険注意(ハザード)”なヤーツー

226

( A、 ) …… : ただ、バッテリーがね? 結

構ヤバイです… | 233

( ρ 。 ) …… | 242



EP0：カーチャンからのプレゼント  
(、A、)：壊れちまえよ、こんな世界……

拝啓

桜が咲き誇り、春という季節色を魅せてくれる時分  
みなさま、いかががお過ごしでしょうか？

タカシです。

どういった漢字の”タカシ”なのか？

そこは日本全国、津々浦々の”タカシ”さんに当てはめて頂くという事で、この際、置いておきます。

今現在、自分がいる世界はしよというのが、昨今のよくある転生モノではなく転移モノであ

り、その転移物の諸々の話によくありそうな、転移先が”生い茂った木々に囲まれた森の中”という場所でもあります。

さらに付け加えるならば、こういう転移・転送系でよくある話という点で、そうですね……”よくありそうなチートモノ”ものでもあると思われれます。

ただ、そのよくありそうな”チートモノ”というヤツなのですが、今現在の状況から言う……

その、何といますか……

全くもってよくありそうなチートモノと、到底言える代物ではありませんでした。

一応、転移や転生モノでよくある”俺TUEEE”的に活躍できるもの系だとは思いま……す？

何故に疑問形という点ですが、状況確認を終えた時点を加味してみると、”俺TUEEE”が出来るように出来ない系になっていると判断が出来るからです。

えっ？そんな事より”チート”がどんな代物かをさっさと言えって？

わかりました。



チート名は「Impact」だそうです。

” Impact<sup>衝</sup>? カッコいいじゃない”

“俺TUEEE出来るじゃん!”

と、思われる方々がおられると思います。

ええ、ええ、おっしゃる通り、順当にいけばごもつともな意見だと当初の私も思っていました。

たしかに、このImpact<sup>衝</sup>の意味が、自分も単純に考えて「衝撃」と思っていたのですが、実際には大きく違っていました……

たとえば、そうですね……

ちようど目の前に、セコイア国立公園……え、知らない?

えーつと、アメ○カの大きな森林公園とかに、とんでもなく巨大な、見上げるしかない巨木がありますよね?

そんな感じの木が、目の前とか周辺にあります。

巨木ですから、その幹のサイズは人の身体の何倍もあるともいえる大きさとか、テレビでみかける感じ系のアレですね。

それでは、そのチートを試すためにと、その巨木に対し“せーの!”と、本気で殴りつけてみたりしますと……

あーら不思議、その巨木が粉微塵になりました。

粉微塵という表現は、一般の方々におきましては“木片が飛び散る”と連想されるかと思いますが。

ですが、実際におきた事といえば、爆発四散という言葉がすらも生易しく、その言葉の意味すら置いて行かれるレベルで粉々というのが実態です。

なにせ、殴った場所だけでなく、巨木全体が粉塵レベルに粉微塵に弾け飛んだのですから。

根つこの部分もその影響を受けたのか、地面だつて一部が陥没する始末です。

どういうことか？とふと思ったのですが・・・

”インパクト”でG○○gleセンセイにでも聞いてみてください。

そうしたら、その意味と類別がでてきくと思うんですが、自分のこの  
 Impact<sup>インパクト</sup>”というチート能力、たぶん単なる”衝撃”や”影響”という事じゃなく  
 ……

”天体の衝突”

だと思っんです。

天体衝突といえばあれです、恐竜絶滅説の一つとして挙がるあれですか、または、三  
 流洋画で似た作品が作られていそうな代物です。

その後、色々と粉微塵にして解つた事を言つてしまえば、”自分が攻撃すると、攻撃  
 された対象には天体衝突並みの衝撃が、対象全体にいきわたる”様なんです。

当たったところだけじゃないのがミソというか、某二重<sup>ふたえ</sup>の極みすら、自分のチート能  
 力の足元に及ばないレベルとなつてしまつています。

なにせ二重ふたえもいらぬ、一撃ワンパンで粉にしますから。

それですね、これ、実験的にですけど、小さな岩山？の壁に向かって、思いつきり殴つてみた事もあるんです。

すると、岩山の壁が消えました。

あ、正確に言うと、自分が殴つた場所を起点に全て吹き飛んだというのではなく、砂になつて砂山？粉山？が飛び散つたと同時に、強い風が吹いたと思つたら舞つていった？散つていった？みたいな？

……少し吸い込んで、せき込んでしまいましたよ。

他にも、デコピン程度でも威力が変わらなかつた、という事実があります。

なにせ襲つてきた小ぶりの魔物？みたいな存在に、手で払いのけてみたら、ほんとに弾けるんですよ？こう、パーンって感じで、何もかもが。

辺りには肉片もどきにすらない、粉状の何かをまき散らした状態しか残っていません。

血液なんて蒸発した？つばいレベルです。

ただ、R15GやR18G指定しておかないとお見せできない代物を、確実に回避してくれるのが救いというか、何というか……

正直に言えば”これは酷い”（いろいろな意味で）を体験したので、直接触れなければいいんじゃない？と思い立ちました。

そうしたら、もつと頭を悩ませる問題が起きました。

それは、そこらに転がっている石ころを拾っては、ゆつくりと対象に投げ当ててみた時の事です。

投げ当てるといっても、こう放物線を描く感じの下手投げで。

放物線を描いて飛んで行った小石、その小石がコツンと当たったかと思つた瞬間、当たった対象がパーンと爆発四散……いや、粉微塵になりました。

こちらにも元・肉片？肉粉と思われる粉物諸々が飛び散っていました。

投げた小石も、はじけたときの威力？で飛び散りと共に飛んできて、ちよつと痛かったです。

まさに、汚い花火……いえ、砂嵐？粉嵐？の完成です。

その時、茫然自失というのは、こういう事をいうのかな？と考えたぐらいです。

そして、こう思いました。

” なんですか、この取り扱い注意のレベル超えているチートは！さわる物みな傷つけるというレベルなんて足元にも及ばないじゃないか！”

と、

正直、今までチートスキルや能力で浮かれてる先輩主人公様方に聞きたいです。こういう力加減が一切制御できない系の代物の場合、どうすればよかいですか？

大変、お見苦しい所をお見せした事を、深くお詫び申し上げます。  
それでは、皆様にも良い物語が見つかりますように。

敬具

追伸：

もしかしたら、地球割りならぬ、地球破壊（本気<sup>マジ</sup>）が出来るかもしれません。  
解決策が見つからなかったら、本気でやってみようと思います。

（A、）：壊れちまえよ、こんな世界……

( ' A ` ) : やっぱ壊れちまえよ、こんな世界……

拝啓

初夏の日差しが厳しく、ますます夏という時分を感じる季節になり、  
いかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

前回、” どうしようもならない ” という結果に諦めの境地を見出し、「もう、どうにでもな—れ—」という心境で地球破壊を慣行してみたところ、拳が当たった感触の後、世界が止まりました。

小鳥のさえずりも、風に揺られる草木も、何もかもがその状態で止まり、それはもう” ピタツ ” つつという表現ができるぐらいに静寂に包まれていきます。

それなのに、自分だけけが取り残されているという予想外の事が起こっては困惑して



いたら、突然、目の前に”カミ”と自称する方が現れていました。

そうして、その方が現れた瞬間「この世界を壊すな！」という怒声を頂き、その後に正座を強要させられ、こまごまとしたご高説……もとい、ありがたいご説教を受けさせていただきました。

ありがたいご説教を頂いた後、この役立チートたスずな技スキルを何とかできないか？と恐る恐る相談を持ち掛けたところ、じつと見つめられた後「その能力スキルを与えた方が自分とは位階が違いすぎる方だから、根本から変えるのは無理だ」とバツサリ切り捨てられました。

何でも、今現在目の前のカミ様は管理階級であり、私に対してチートを与えたのは創世階級という、ほぼほぼ最高位の方だとか。

そして、位階がまったく違いすぎて対応が不可能かつ、無理にどうこうしようと出来るものなら、とうにやっっている、という愚痴をこぼすような形で、日ごろの鬱憤を口からあふれんばかりにこぼされておられました。

社会的にいえば、役職が違うという風な事だったので、詳しく説明していただいた

ところによると、この世界そのものを作ったのが創世神で、作った世界を管理するのが管理神の自分たちだという事で、いうなれば下位の役職という恰好だそうです。

もつとわかりやすく言うなら、創業者と管理職の違いといえいいのでしょうか。

で、その創世神は、世界の理ことわりすらも創っているために、こうしたチート能力を理ことわりの中に組み込む事で再現を可能にさせているとか。

そのため、理ことわりの中に、“無理やりねじ込んだ、いびつな存在”が起こす問題に対して、目の前におられる管理神が働いているとか何とかとおっしゃりました。

そうですか、自分“いびつな存在”だったみたいです。

そんな説明をしてくださる神様の“社長の無理無謀に振り回される管理職ってこういうのを言うのでしょうか?”という、どこか報われない中間管理職の様な感じをうけてしまい、同情的な感傷におちついてしまいました。

そんな話(愚痴ともいうのでしょうか)を延々と聞かされましたが、結局、創世神つ

て、もしかして厄病神か何かの親類ではないでしょうか？と、心の中で確定事項として保存しておきます。

とりあえず世界の修復をするから、しばらくその力を制御できるようにしておけ、と言われた途端、いきなり視界が変わったかと思えば、某精神とか時とかの部屋よろしく、白い空間に標的となるマト？がポツンとある空間に飛ばされました。

(なお、足が痺れてしばらく悶絶していたのは、当たり前だと思います。)

ようやく真面に動けるようになり、調べるつもりで、そのマトの継ぎ目はどうなっているのかと引つ張った瞬間、爆発四散しました。

飛び散った粉が目に入って少し痛かったです、四散した粉塵が消えたかと思えば、元通りに元の位置に爆発する前の状態の物が復活していました。

他にはと調べてみるも、生活に役に立つような設備がありません。

さらに、見つけたものといえば、寝具と食料が置いてあるだけでしたが……

これは、先程の管理神の言葉と、この道具の状況から察するに、修行しろという事だとも思い、とにかく手加減的な事か、威力をなくしてみる事をやってみようかと繰り返し返す事、二日ほどで分かったことがありました。

何をどうやっても、盛大に粉末へと爆発四散します。

よくある魔法的な何やらとかでイメージ?とかいうもので、打ち上げ花火ではなく線香花火的なイメージだけを持つだけでも、同じ風に爆発四散します。

他にも、北の方の拳のごとく、人差し指で突くと、ダウンするどころか爆発四散。

それも、ピーとかそんな音が起きてから四散とかではありません、触った瞬間に風船がはじけるのごとく、パンという感じですよ。

ちなみに、親指・人差し指は当たり前で発動し、中指、薬指、小指、足の指すらすべてで確認がとれました。

もつといえ、勢いよくつついても、ゆっくりつついても、触れるという形でも爆発四散です。

こうなればと腕、頭突きに膝蹴り、パンチにビンタ、と試してみるだけためしましたが、打撃系はすべてアウトです。

それならばと、置いてあつた棒切れでたたいたり、突いたり、投げつけたりでも同じでした。

まあ、さすがに、トンファーよそ見よろしく、マトを意識して棒切れよそ見は何も起き……

爆発四散、否、粉微塵になりました。

もう、訳が分かりません。

試しに、自分自身に対して痛みを感じる程度につねったり、つついたり、たたいたり、などなどしましたが、自分自身には全く発動する気配がありません。

というか、そろそろ気力体力ともに持ちそうにありません……

なにせ食料がまともに取れていません。

噛もうとするだけで爆発四散しますから。

歯が欠けるといいう事はなかったのですが、喉の奥に飛んで入るのはやめてほしかったです。

仕方がないので、吹き飛んだ破片を吸い込むしかないという、ケダモノ以下の食事のとり方しかできていない始末から始まり、今では吹き飛んだ物を落下地点で口を開けて待ち構えるしかありません。

液体物は、噴水よろしく流れている所にうまく顔を入れないといけません。

勢いあまって頭からつつこむと、流れている水が爆発四散していきます。

訳がわかりませんが、はつきりした事があります。

こんなスキルを、お与えくださった神は、やっぱり厄病神だと確信します。

それでは、みなさまにも、理不尽な異世界生活が訪れないことを願いつつ。

敬具

追伸：

最近では、爆発四散する方向の傾向がわかり始めました。

爆発四散する物体の元の形状によっては、微妙に異なるようです。

指でつつくと、ほら、自分の想定した全方位に爆発四散する様に見えますが、  
こう、広がり方が微妙に……変わって……

（A、）：やっぱ壊れちまえよ、こんな世界……

(, A、) : 誰か、疫病神を消す方法を教えてください。

拜啓

山々が紅葉に彩られ、季節が変わっていくのを視覚的にも感じている頃ですが、いかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

大変ショツキングな事態が発生しました。

状況確認に来られた、管理神の御使いという方が爆発四散しました。

状況としては、床で寝ている（寝台はとうに爆発四散して形すら無くなってます）こちらの目の前に現れ、寝ぼけながらに目の前に見えていた足が邪魔だなあと手で振り払った瞬間に、です。



状況を理解しては、一気に目が覚めました。

再び現れた時は管理神様と一緒にでしたが、管理神様の背中に隠れるように”あの怖  
い、あの怖い”と震える声で言い続けられていました。

正直、申し訳ない思いがすごかったです……

その後、管理神様からどういった経緯なのかの説明を受けました。

状況確認の為に派遣したそうなのですが、この世界の理ことわりの外にも存在できる神様の使  
いにも爆発四散となったのは、チートスキルを与えた創世神のモノだったために、自  
分の位階が低かったためという事だそうです。

そう、床に座る管理神様はそうおっしゃられていました。

ただ、その管理神様の後ろに隠れるように、ずっと震えてる神様の使いの方がおられ  
ましたが……正直、その怖がる姿が見るに堪えませんので、見なかったこととして  
話を進めました。

それで、管理神様も、まさか使いの物が能力チートの影響を受けるといのが想定外だったらしく、世界の修復中にも関わらずいらっしやったそうです。

大変恐縮です……

さらに話を聞いていくと、いくらスキルといつても世界の理ことわりを管理する神階級、またはその眷属などに類する者たちまで影響を与えらるゝとなれば、さすがに放つては置けないという事だそうです。

という事で、とりあえずは今までの修行?の成果を聞かれたので、結果を伝えました。

その結果を聞いた途端、管理神様は片手で顔を抑えては”厄介事ばかり押付けやがって、もうあいつが爆発四散してシ(んでし)まえ!”みたいな事をおっしゃられていました。

なお、言葉の内容はそれは酷く、そして長くなっていたので、こちらで勝手に変換しております。

そういつた言葉を発していたのは、聞かなかった事にするのが、大人な対応だと思いません。

心中お察しします。

自分もとてもそう思いますので。

なので、とりあえずその疫病神野郎を爆発四散リストの筆頭にしておこうと思います。

さて、問題が一向に解決することもなく、まず食事がまともに取りれない事が問題だという事を伝えました。

そこで再び、”あいつ、なんでそんなんで創世クラスの位階をやってんだよ……”と愚痴られました。

その点に関しましては、全力で同意したいと思います。

結局、何をやってもダメだったという結果しか無かった事に対して、管理神様もほとんど疲れた表情をされていきました。

ともかくにも、こちらのスキル？を詳しく調べさせてほしいという事で、それによつて解消されるなら、いくらでも良いですよと返事をさせていただきました。

そうして、管理神様は急に透明なプレート？みたいなのを広げては、その後ろにいる御使いの方と一緒に、これは、あれは、ここが・・・といろいろと調べだされました。

その間、することがありません。

とりあえず、フルーツを爆発四散させて喉を潤しておきます。

最近では、同時に二点以上触れたりすると、ある程度の爆発四散の方向を調整し、粉山にできる様になってきました。

これはあれですね、味のある粉末というか、味気(意味違う)も何もありませんが……  
それに、爆発<sup>ハ</sup>四散<sup>ジケ</sup>ること自体はわかりませんが。

粉を吸い込むことで何とか保っているという、冷静に考えてみては、そんな姿は、はたから見たら、どこぞの危ないジャンキーとしか見えないのはどうなんでしょうか。

そうやって時間をつぶしていると、管理神様から呼ばれました。

何でも、理ことわりの中に無理やり詰め込んだために、断片的な処理があつちこつちに分散されており、要点を探すのがさらに複雑化していたそうです。

いふなれば、スパゲッティコードなのでしょうか？

そうして、この衛星衝突インパクトという能力チートについて、発動条件だけはわかったとのことでした。

発動条件、それは”意識”をもった”攻撃”と”判定”された時だそうです。

ただ、その発動結果は最悪で、その対象となる個と判定された全てに発生するという事だそうです。

確かに、いままでの行動を振り返ってみると、”攻撃”という意識をもった行動に取られる物で発動しています。

物理的な事がきつかけだと思つてましたが、まったく異なる観点だった点にも納得してしまいました。

その後の結果に関しても、想定した内容のままですし……ね？

そうして、これまでの内容と結果、トリガーとなる条件などなどの諸々を考えてみて、ふと気づいたことがありました。

これ、”物理的でない、口論的な攻撃でも成り立ちませんか？”と。

管理神様と御使い様、この言葉を聞いた途端両者ともに”あつ”といった感じで青ざめておられました。

もう、その時点でお察し状態です。

まあ、確証が得られたと同義ですが……

効くんですな？

この場にはいない疫病よ…創世神に対して、りろせいぜん理路整然でクドクドと論じて、口撃ならぬ攻撃をしてみます。

やれスキルの内容が酷すぎる点から始まり、その点からくるデメリットをツラツラを上げ連ね、そして、実際に起こった時事を例を挙げては、さらに問題点をついた内容を挙げていきます。

ついでに、管理神様がいかに苦勞されるかに関しても付け加えながら。

そうして、数十分にも及ぶ口論が終了した際、管理神様と御使い様から拍手を頂き、管理神様からよく言ってくれたと握手…爆発四散しました。

なぜ……？

攻撃という認識はなかったのですが、触れたことが攻撃と認識されたのでしょうか？  
それとも、握りこんだ時がそうなのでしょうか……

そもそも、攻撃の判定は、何がしているのでしょうか……

そう思っていると、ひよこりと再び現れなおした管理神様でしたが、お互いが”びつくりした”という表情で固まり、”気にしないで、物理的な物は、一応は大丈夫だから”と、すぐに受肉で再構築して現れたとの事です。

その対応にもびつくりですが、神様には、物理的なのは効果的ではないのですね……ちくせう……

なお、あんな事があつたにも平然とされていますが、こちらの非ではないから気にするなど言われました。

なんでも管理神になるには”一事象のレイヤーだけの攻撃は再生できなければならぬ”という資格条件？を持っていないといけなからと、これぐらいは大丈夫だと

大変恐縮としか言えませんが、そういうモノが資格制度ありきだったのかと初めて知りました。



そんなことを思いながらも、やはり疫病神は疫病神だなど、お互いが言い合っていました。

そんな疫病神上司を持つ管理神様という存在は、神経が太くないとやってられないのでしょうか？

たぶん、そうなのでしょう。

それでは、冬の気配が近づいていると思いますが、体調には気を付けてお過ごしください。

敬具

追伸

「神を傷つけられし者」なる実績が得られ、そんな特性？がImpactに増えたそうです。

ですが、疫びよ…創世神は、当たり前前のようにご存命だそうです。

創世をつかさどるといふくらいですから、管理神様のごとく復活？したのかもしれない。  
せん。

特性は消せるけどどうする？と言われてましたが、残しておいて頂くよう伝えました。  
もしかしたら、役に立つ時があると思いますので。

( , A , ) : 誰か、疫病神を消す方法を教えてください。

（、A、）：これ、何てイジメ？ご褒美でもネーよ……

拝啓

肌を感じる空気という装いが一層冷たく感じられ、

景色が白く彩られる時節、いかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

進展がありました。

悪い方向に。

それは管理神様宛の手紙という代物でとどきました。

差出人は厄病……創世神だそうですが”嫌な予想”を強く感じてしまいます。

そうして、管理神様が読み上げた内容をオブラートに包んだ内容で要約?意識?する  
と……

”ごつめーん、ひさかた過ぎてやり方ド忘れしてテキストに設定しちゃった(テヘペ  
ロ、

判定基準の所、書き換えとくねー”

という、本当の内容は、もっとフランクすぎて陽キャ的な代物で理解するのにも少し  
頭をひねる必要がある代物でした。

なお、管理神様が読み上げた後、笑顔で握りつぶして光の粒子になっていたのは見な  
かったことにします。

とりあえず、管理神様と御使い様のお二方の確認作業により、”対象に対して攻撃と判定された時”というシステム？理？の条件判定部分が”想定した対象に対して攻撃の意図、意思があると、本人が見做みなした時”という内容に変わっていました。

判定基準をシステムに判断させるのではなく、自身に委ねゆだねられたために、多少なりとも進展しているようにみえます。

みえますが……

どう見ても、さらに厄介な事にしてきてくれます。

物理的な実行トリガー部分が、なくなっておりやがります。

バカなの？アホなの？

さすが厄病神野郎です。

確認の為に、実際にどういう風に変わったのか調べてみようとなりましたが、もう結果がわかってしまいました。

標的を視界にいれ、攻撃を行ったイメージをします。

みごとに弾け飛びました。

正直、この結果に”頭痛が痛い”です。

判定基準が物理的な行動を伴っていたので、はつきりしていた前より、物理トリガーがまったくなくなってしまい、さらに悪化しています。

なにせ、頭の中で何かしら攻撃的なイメージを本人がしたら、こうなるという事は想定はしていましたが、実際に起こるとシャレになっていません。

管理神様も疲れた表情をしながら、”この内容だと、そう思考しただけで実行されるよね……”と。

つまり、何か対象に攻撃的なイメージ（例えば、”切りつける”とか”傷をつける”など）を妄想や想像を行っただけで、その対象を爆発四散させてしまいます。

他にも気になったので、ためしに置いてあつた食料を対象に包丁で切り付けて調理す

るイメージを……やっぱり遠くの置き場で爆発四散していました。

包丁、つまり刃物で切り付けるといふ行為を妄想範囲で認識できたら、近くになってもなるんじゃないかなあと思っていました。が、想定通りすぎて何も言えません。

さらに言えば、実際に包丁などの武器?になる類の物を手に持って、相手に向かった瞬間に……

もつといえ、相手に向かわなくても、武器を持ってそういうイメージした途端に、イメージした対象が爆発四散になってしまいます。

ここまで来たら、最悪中の最悪が想定できたので口頭で確認をしておきます。



管理神様に聞きました。

”星を破壊するイメージを持つたらどうなりますか?”と。

二人とも、特に管理神様の方はさらに青ざめて”やめてね?絶対やめてね?”と繰り返してられました。

そして、”ここまで来たら、もう洒落にもなっていないから直談判してくる”と言つては、言葉には表せにくい、とてもすごい形相で去られて行かれました。

”今回ばかりは殴ってきてやる……”など、物騒な事も仰られていたようですが、聞かなかつたことにおきます。

それでは、就寝時にはくれぐれも風邪などに注意をし、健康管理には十分注意していただくよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

追伸

御使い（女性）の方が残られ、食事情は多少改善されました。

なお、私の視界範囲には入られないようにされているようですが……

避けに避け続けられる行為というものは、結構、堪えるものだなと思いました。

そんな精神的なストレス発散方法として、厄病神という存在をチェインソーでぶった切るイメージトレーニングで解消しておきます。

(A、) : これ、何ていうイジメ?ご褒美でもネーよ……

（、A、）：厄病神（クソ）野郎は、糞（クソ）でも喰らつてろや・・・

恭賀新春

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

タカシです。

管理神様が戻られました。

大変疲れたとでもいう雰囲気とやり切ったという感じを醸し出されておりますが、その要因としては、所々にみられる青あざの様な物と、何故かあちこちに破れた衣類に、何やら闇オーラの黒ずんでいる何かが見えていたのは、見なかつた事にしておきます。

さて、結論から申し上げますと、自分のチートは、この異世界の理ことわりにガツチリと紐づ

けされているので、それを修正というか、断ち切るためには、一度、この異世界を壊してから作り変えるしかない。との事でした。

ただ、紐づけするための部分は余裕を持たせておいてあるために、そちらを弄れるように権限を奪って・・・もとい、下賜してもらえた。との事だそうです。

”最後にモノを言うのは、己の拳だった”とか何とか言っていましたか……：：：  
神様の世界には、物理的なパワハラ(?)は許容されているのでしょうか？

さつそく、権限の行える範囲でという事で修正作業に入られ、結果としては、

”攻撃の意思を持って行動を取り、実際に物理的な実行が成された場合”

という、言葉遊びのような、これでもかというような設定に落ち着きました。

”爆発四散”という結果部分は、どうやっても取り切れないための苦肉の策らしいです。

早速という事で、食料を手にとってみても問題もなく、ただ単に強く握る行為をおこなっても、爆発四散しません。

”おおつ”と、お互いが喜んびながら噛んでみると

口の中で爆発四散しました。

静寂に包まれ、全然落ち着きませんでした。

どうやら、食事という行為の中で、”歯で噛む”というのが「攻撃の意志あり、行動され、実行された」という認識にされたという事だそうです。

正直、もうウンザリです。

管理神様も、御使い様も、そして自分も疲れしました。

なので、異世界とかそういうのは、もうどうでもいいので帰らせてほしい。という事を伝えてみました。

”そう・・・なるよね・・・”という意味の納得の表情を頂き、じゃあ、特別処置として帰るための手続きと段取りを取っておくという話になりました。

正直、こんな精神的にも肉体的にも、疲弊度合いが洒落にならない場所にこれ以上居続ける気が一切いたしません。

異世界の理ことわりからも、とつとと退散する事にしました。

.....

そうして、自分の異世界ファンタジーは、終わりを告げました。

気が付けば、いつものILDKの隅にある万年床ともいえるパイプベッドの中で目覚めました。

今いつなのかと、スマートフォンで日付を確認すると、いきなり異世界に飛ばされた最後に確認した休日と同じ日時でした。

あれは夢だったんだろう。

いや、夢に違いない、というか夢であってほしい。

そんな願望とも呼べる思案を終わらせ、冷蔵庫から水を取り出しては水を飲んでは一息つきます。

ふと、キッチンの足元に黒光りするアイツが現れました。

春先、暖かくなってきたのか、こういう輩が出てくるのだろうか、冷凍氷結スプレー

を吹き付け

小さく”パンツ”という衝撃音と共に爆発四散しました。

あたり一面には、アイツの肉片や体液だったらしき粉みたいな・・・  
うっすらと流れる空気につて、煙のようなものが流れていき・・・

エツ？



エ  
ッ  
？

皆様におかれましては幸多き一年でありますよう、心からお祈り申し上げます。

追伸：

そ、そうだ、これは夢なんだ

ぼくは今、夢を見ているんだ

目が覚めたとき、ぼくはまだ12歳

起きたらラジオ体操に行つて、

朝ご飯を食べて、涼しい午前中にスイカを食べながら宿題して、

午後から友達とプールにいったとおもいつきり遊ぶ・・・

(、A、)：厄病神<sup>クソ</sup>野郎は、糞<sup>クソ</sup>でも喰らってるや・・・

EP1：スごくフあんな、いせかいファンタジー

（A、）：いったい自分が何したっていうんだよ・・・

拝啓

サクラが咲き始め、暖かい風を感じては、季節が移り変わろうとしているのを五感で感じる事が出来るこの頃、いかがお過ごしでしょうか。

タカシです。

黒光りする存在あのあれが、煙のごとく弾けた現象は夢であった事にしようとお布団という代物の中にもぐりこんで現実逃避をと思いたちました。

ですが、それが実行される直前、以前に経験した精神とか時とかの部屋？へ移動する様な光が身体を包み込んでいました。

そうですね、こんな能力チートを持ったまま、自分がいた世界にあるのはおかしい話です。きつと呼び戻されての対応という事なんでしょう。

ただ、またお世話になった管理神様や御使い様や、厄病神クシヤロウとの闘争が待っているのかと思えば、少し気が重くなりますが・・・こればかりは致し方ないなど、お布団の中への逃避行を諦めました。

そうして、目をつむらないと耐えれないぐらいのまぶしい光が放たれたかと思えば、あの白い空間・・・

ではありませんでした。

記憶に覚えのある明るく白い空間とは違ってかわり、今度は薄暗く湿っぽい空間とで

もいっただけですか。

そして、辺りを見渡してみると、自分を中心に等間隔で人が円陣を組んでいるかの様に配置され、それらを数えると一人、二人・・・数えて六人でしょうか。

それに加えて、さらに奥の方に離れて数人の人らしき人がいたりしますが・・・

えーっと、パツと見た目、周囲の方たちは管理神様の関連の人？神様？み使いの方？とも思ったのですが・・・そんな雰囲気は一切いたしません。

離れている人たちは、何やら相談をしているようでもありますが・・・  
どうやら、その話し合いが終わったのか、何かが決まったようです。

その集団の人がこちらにやってきては自分を掴みかかり、なされるがままにしていたら、木枠の手枷をかけられ、なおかつ同じような首輪をつけられては、何かの言葉？呪文を放つと、手枷と首輪が淡く光りました。

そうして、手枷に繋がれたヒモを引っ張られるままに連れていかれるという始末を経験しました。

成されるままにしていたのは、ここで抵抗的なことを行つて「攻撃」と判断処理をされてしまったら、辺り一面 . . . 地獄絵図？ いや、粉まみれになりそうで、どういう状況かの情報が得られないと思つたからでしたが . . .

そもそも、もし間違つて、この人たちに危害を加えるという行為が、自分の倫理観に抵触すると、下手をしたら確実に報復されると予想がきます。

なにせ、よくある剣を帯剣している武装した人達が一緒にいますから、こういうときは大人しくしているのが吉という奴だと思えます。

そうして、分厚い木と鉄棒の扉がある部屋？ の中に放り込まれては、カチリという錠が掛かった音と共に去っていききました。

これは、いうなれば・・・軟禁というやつでしょうか？

とりあえず、手枷がきつく苦しかったので、手枷を意識して膝蹴りを当ててみると、手枷だけが粉微塵になってしまいました。

ついでに、首輪も・・・と思いましたが、首輪が無くなつてると気づいたら、相手がどう行動してくるのかが想定できないため、そこまでは不味いか？と判断して止めておきます。

— そうですね、いままでは盛大に粉末となって飛び散ってましたが、黒光りするアイツも、今の手錠なども、大きな爆発四散という事もなくなつたというか・・・まあ、粉以下の大きさの物が破裂してもあまり痛みが無いのは良かったと思っておきます。

— そうして、部屋の中を確認します。

— 岩壁に石床に石天井、石に囲まれた空間というか、そういう場所というのは理解できませんでした。

灯は鉄格子でふさがれた窓があるため、なんとか明るいのですが、かなり高いところにあるため、外の状況を見ることが困難だと思いました。

他には、一部は木製の材料を使っている所をみると、しっかりと作られてるといった印象です。

なお、お手洗いと思わしきものは、部屋の隅に立派な壺が置いてありました。

自分、これからどうなるのでしょうか・・・

まずは、新たな事が起こり始めたことを、簡略的ではありますが経過を報告しておきます。

敬具



追伸

とりあえず、扉にある小さな窓から放り込まれる食料？らしきモノで食事はできました。

なぜか、噛んでも破裂しません！

何日ぶりかのまともな食事に、さらに“噛める”という喜びは格別だったと記しておきます。

なお、味については、この際考えないでおきます。

そもそも、こういう事で喜べる時点で、おかしくないか？とは思いますが・・・

（A、）：いったい自分が何したっていうんだよ・・・

(、A、)：やっぱ無理・・・

拝啓

雨が多く、紫陽花あじさいの花が力強く咲き乱れる季節になりましたが、みなさんいかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

数日ほどあの部屋に軟禁されていましたが、ようやく、お天道様の下に出ることが叶いました。

ただ、その場所がなぜか円形の壁に囲まれ、観客席から見下ろされる舞台とでもいうのでしょうか。

そして、連れ出されるままに従って、その舞台に出されると、出てきた鉄の扉が閉められては、放置された状態です。

しばらくすると、何かしら鼓舞するような大声が広がり、大歓声が辺りを包み込んだ

時、正直、自分がここにいる必要があるのか理解に苦しみました。

そうして、何かの宣言とファンファーレ？の後に、自分が出てきたところとは対称の位置にある鉄の扉がひらいて、そこから現れたのは一つの大きな動物たちでした。

ええ、一つの大きな動物に複数の動物で間違いはなかったと記憶しています。

なにせ、顔がパツとみだけでも5つほどあり、それぞれがそれぞれの獣の手足があるけれども、その中のひとつ大きな手足？が、大地に立っているというか、立たせているというか……

なんというか、生物としておかし過ぎる存在が現れました。

その生物だったものというか、気持ち悪いモノとでもいう存在は、あたりを見渡しているのか、しきりにそれぞれの顔を動かし、視線を動かして……あ、目があいました。

一つの顔に付いている目とあつたら、その頭部？胴体？に付随しているそのほかの色々な目がちちらを見つめてきます。

そして、たれ落ちる涎

これはアレですか。

確実に捕食にくる前動作というのでしょうか。

さすがに、これはなすが儘ままだとマズイと直感しました。

「攻撃」する意識をもったのですが、相手は爆発ハッ四散シッません

意識だけじゃダメかと、まずはこの疫病神ケツからもらったチート能力がどうなっているかの確認を兼ねて、広場を囲っている壁を殴るために振りかぶっては拳を叩きつけた瞬間、周囲の壁もろとも粉微塵チリに吹き飛びました。

なぜか、今度は盛大に粉末が散らばる様に吹き飛んだんですが . . .

一応は、チートスキルが発動はしましたが、何か以前とは異なる発動条件とでもいうか、そうししかと思えません、元が疫病神ケツ野郎が行う事であるならば、そういうモノになっても仕方が無いのかもしれませんが。

とにかく、なぐり付けたその壁に連なっている壁に含まれる部分は跡形もなくなり、粉というか煙が舞い散る中、観客席と思しき座席にいた人たちが落下してくる始末でした。

そうすると、一瞬静かになった後、あたり一面先ほどまでの歓声とは打って変わって、悲鳴？的な声があちらこちらから聞こえてきます。

そういえば、生物らしきモノはどうしたのかと見てみると、こちらをジッと見ているまま止まっていました。

たしか、野生動物とかは視線を逸らしたらヤバいという話を記憶しています。

さすがに、今更ながらに思い出し、その視線に対して目をそらさないように睨み返している、軽く後づさった後、急に体をひっくり返してはお腹を見せ始めました。

・  
・  
・

なんでしょう、野生の動物ってというのはこういう事するのでしょうか？よくわかりません。

恐る恐る近づいてみるも、その状況から変わる事もなく、触ろうとするとビクツという感じで震えているというか・・・

普通に触れました。

おとなしくなった事で、危険を感じる事はなくなつたと判断しました。

ただ、離れていく多くの人のほかに、武器を携えてこちらへ向かってくる人たちがおり、そういった人たちによって周囲を徐々に囲われているのが、次の問題だと思えます。

とりあえずは覚えている内容を、お伝えさせていただきました。

敬具

## 追伸

なんか生物もどきに懐かれました。

近寄ってみると、甘い声で鳴いてすり寄ってきます。

ただ、毛もない素肌的な代物と、いくつもの頭部からそれぞれ異なる声で鳴かれるとやはり、こう・・・こたえます・・・

（A、）：やっぱ無理・・・

( ' A ` ) : モウ、オウチ、カエシテ・・・

拝啓

海風が心地よく感じ、静かな海辺に強い日差しを振りそそぐ太陽の光が、波間では輝く宝石の様に見え隠れする時分、いかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

現在、絶賛サバイバルになりそうな雰囲気です。

そして、となりにいるのは、あの気持ち悪いとしか形容できない生物なのかさうでないのかの判断すらも疑問をもってしまうレベルの存在が、自分を囲むように体を丸めています。

たぶん、毛があつたら気持ち良いのかもかもしれませんのですが、どうみても甲殻の類です。ゴツゴツしてる部分が当たってかなり痛いのです。

そもそも、もたれかかる恰好になる身体の一部は、何故か目があつては、こちらを睨



んでいる状況で、休むこともままならないのではと思います。

再度いいますが、生物というのを侮辱してるんじゃないかというぐらいのクリーチャー度が高すぎて、正直に言ったとしてもキツイの一言です。

近づいてみればみるほどに、SUN値チェックしたら、直送になるレベルに匹敵しそうですね。

そうそう、あの囲まれた状態でどうなったかというところ、このクリーチャーに軽々と啜えあげられ、そのまま囲んでいる兵士たちを飛び越えてはとてつもない速度で走り去った格好です。

いや、”走る”というには、いささか表現が正しいのかわかりませんが、飛翔？というには、高さが足りなさすぎるかもしれません。

それよりも、自信の視点が地面すれすれで、なおかつ高速移動という状態なので、正直、気分を保つのに一所懸命であったというのが正しいのでしょうか。

それにしても、呼吸をするのが困難な速度でしたが・・・  
加えられた状態で、風を感じるとか思いませんでした。

それよりも、このクリーチャー翼があつたんですね。

その顔群たちに気を取られすぎて気づくのが遅れましたが、鳥類とか蝙蝠とか魚類とか昆虫とでもいうか、いろいろ混じりすぎて、何が何やらわからない翼を使つては飛行の様な跳躍走行を行い、あの窮地から逃げられだせれたといった感じですが。

ただ、上には飛べないみたいですが。

そうして、異様に大きな大木が生い茂っている森の中へと入りこみ、追われることもなくようやく地面に足を付けることができました。

地面に立った時点で、口から虹色の液体もどきが出たのは、割愛しておきます。

それより、次なる問題が発生しています。

ここはどこなのでしょう。

さらにいうならば、どうすれば帰れるのでしょうか。

かなり疲れたので、少々睡眠をとつては冷静になればと思います。となりで、ニチャアと開いた口？を気にしなければですが。

敬具

追伸

眠れたかと思った時、上の方から垂れてくる涎があります。色々とキツイというポイントをさらに加算してきます。

正直、つらいです。

(、A、)：モウ、オウチ、カエシテ・・・

（ ' A ` ） : ファンタジー世界というか、B級洋画の世界かな？

拜啓

大地の実りがたくましく育ち、その季節を味覚という感覚で十二分に味わえる昨今、いかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

考える事をやめた時、人というのは思い切った行動を躊躇なく行えるといいますが、自分自身がそういう事態に陥るとは思いもありませんでした。

なにしろ、躊躇なく地球割りをしようかんのぎしき行ってしまったからです。

結論から申しますと、今度はしつかりと大地が粉微塵に砕け散り、自分の身体が宙に放り出されるといふ現象が起きました。

あれ？世界が止まらない？

止まるどころか、自分の身体とクリーチャーが下に向かって落下している格好になっています。

そして、視界に入ってきたのは、無数に浮かぶ大地があたり各所に見えているという不思議な空間であるわけで・・・

まさかの空に浮かんでる島だとは思ってもありませんでした。

そして、見える範囲でいうなれば、大きな浮島から小さな島々まで種々さまざまな浮島？大陸？が入り乱れているという不思議空間とでもいいますようか・・・

とにもかくにも、足場となる場所が消え去った為に、自然と落下していく自分と、そんな自分を一つの口が加えてはクリーチャー君が必至に飛ばそう？浮かぼう？として一

所懸命に背中に翼が生えてきては、羽ばたき続けている状態でした。

何故か申し訳無い気分になってしまいました。

さりとして、ほかにすることもなく落下しつづけると、人というのは冷静になるものなのか、周囲観察にいそしんでしまうモノなのでしょう。

どうも惑星とかそういう世界とは異なるとでもいったような、平たい世界が無数にあるとでもいうか・・・

まさにファンタジーな世界だなと感心してしまう自分がいました。

・  
・  
・

・  
・  
・  
・  
・

結局、お家に帰る為の神様という存在を召喚する儀式に失敗しては、出会える事すら叶わなかったわけです。

現実というのは非情である。というのを、パイ投げ顔面直撃というレベルでたたきつけられてしまいました。

そろそろ、目前に終着駅が見えてきました。

どうやら、私の冒険はここまでの様です。  
ファンタジー

神様でなくてもいいので、どなたか帰る方法を教えてください。

敬具

追伸

次の大陸（？）に到着しました。

着水する事になり一命はとりとめました。が、辺り一面が水面です。

塩の味しないので、海ではないとは思いますが、  
遠くにサメらしきものの集団が空を飛んでる（泳いでる？）のは、  
いかななものかと思えます。

（ ' A 、 ） : ファンタジー世界というか、B級映画の世界かな？



（、A、）：アト、”色々”ト、ダイジヨウブナノ？

恭賀新春

皆様には、幸多き新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は大変お世話になりました、まことにありがとうございます。  
本年もよろしくお付き合いいただけますよう、お願い申し上げます。

タカシです。

何とか陸地へと泳ぎ着き、帰る方法を探すにしても、何も無いこの海岸ともいえる砂浜だけでは何ともならないと思い、右壁の法則を活用するみたいな恰好で、海岸沿いにすぐさま移動する事にしました。

すぐさま移動しようと思ったのは、海？湖？を眺めていた目の前で、空飛ぶサメと思われる集団と、巨大なイカが体半分水面上に出しながら争っているのを目の前で繰り広げ

られているのをみせられると、海？湖？を調べるのはそもそも無理な話だと判断したからともいいいます。

歩き続けてみた物の、沿岸部といっても延々に砂浜があるわけでもなく、岩場もあれば、断崖になっている部分もあったり、そういった場所は登る所を探すために森林部分を歩み進んでいたのですが、背後からはもう一つの存在が、盛大に木々をなぎ倒しながらついてきています。

それはもう、バキバキというか、もうメキメキっていうレベルの音を持って。

ちらりと振り返ってやると、どことなく嬉しそうに見えたりするのは気のせいだと思います。

ただ、そのいくつもある口の一つから、涎がたれてるのを見なければ、もしかしたらカワイイのかも？と思ったりした自分がいた事に気づきました。

・・・毒されてきてるのでしょいか

そうこうしながらも先に進むと、空が赤く染まり始めた頃合いに、少し広い所へと出てきました。

道中の木々の間から見え隠れはしてはいたんですが、もしかしたらと思いつつも、まさかそんな事があるわけない”と否定していた自分がいました。

が、その目的地としていた場所にたどり着いたときに確認しました。

映画の世界パク・・・リスペクトしてるよね？絶対：しかもハリウッド系。と・・・

何しろ、少し広場っぽくなっていった場所に聳え立っていたのは、たいまつ松明？らしきオブジェを持っている左腕を大きく上にあげている石像が一つ存在していました。

しかも、みるからに下半分が埋もれ、さらに傾いている状態で、でした。

これは、四つん這いになつては、"ここは地球だったのか……"と言わなければならぬのだろうか?と考へてしまう具合に再現度が高かつたのが悔しいです。

こうなれば見た目がサル文明が出てきても驚く事もなくなりそうです。

地底人が現れても、驚きすらしません。

それに啞えて、幼虫時にフェイスをハグしてくるちよつと気持ち悪い宇宙生物的なものが出てきたり、それらを狩る戦闘狩猟種族さえ出てきそうです。

・  
・  
・

後ろをチラリとみた時に視界に入る、お座りの状態でこちらを見ている存在を見たら、あれ以上のクリーチャーが出てきてほしくないなあとは思いましたが……

追伸

お腹が鳴り、腹が減ったなあと思っていたら、クリーチャーがふと居なくなっていました。

そんな折、現地民と接触しました。

頭までの丈が自分よりも大きく、体が筋骨隆々な現地人に捕まり、すぐくテキパキと機敏に作業されては、

現在、金属製の檻に入れられては、ドナドナされています。

ただ、運んでる方たちが、どう見ても”E”が”T”の人たちなんですけど……ソツチカー、ソツチテキチャツタカー……

（A、）：アト、”色々”ト、ダイジヨウブナノ？

( , A ` ; ) : エツ?事案?コレ事案ダヨネ?タイーホ案件  
? : エツ?

拜啓

朝駆け時に、雨露や吐息が白く変化していく様を、視覚で感じては、その寒さを肌で実感する季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか?

タカシです。

鉄の檻という囲いになっている猫車（一輪車ともいう）に乗せられ、連れていかれた場所というと、集落? ベースキャンプ? らしき所へとたどり着きました。

ただ、道中にあつた溪谷を、満月をバックに空を飛んで飛び越えていたのは気にしないでおきます。

そうして、一つの大きな屋敷? 建造物? らしきところに入っていつては、猫車から降

ろされたかと思えば、”E”と”T”の人達の一人から、あの定番であろう光る指先を出されてきました。

これはアレかな？こちらも指先をあてるべきかな？と思ったりしていたのですが、そういう訳でもなく、こちらの眉間にグイグイと押し当ててきました。

ちよつと痛かった印象がありました、相手の声が聞こえてきた驚きで上書きされました。

その聞こえてきた声の内容といえば「私は、貴官を保護するようにと命令を承っている」という事でした。

あと、何気にすぐくダンディな声だったのが印象的でした。

その後も「化け物を確認している。貴官の安全を確保するために、簡易的ではあるが、一時的に拘束を行った事については、謝罪を述べさせてもらおう」「食事を準備しよう。まともな食事にありつけていないと聞く。だが、我々も任務中の為、大した振る舞いができない事を先に謝っておく」などなど、流暢に淡々と話されては行動を処理されていき

ました。

その行動のどれもが、とてもキビキビとしており、どうみても軍人然としているとい  
うか、よく訓練されている兵士とでもいうか、そんな印象を受けます。

ただ、説明を受ける度に眉間を突つかれなければ、なお良かったのですが・・・

そういえば、よくよく考えたら、こういう他の星に宇宙船に乗ってやってくる人とい  
えば、それなりのエリートなのではなからうか?という事を考えたりできる余裕ができ  
てきました。

「そこそこ食べれる物で歓待を受ける様な形で、時間が過ぎ去っていった頃合いに「ク  
ライアントが面会を求めているが、構わないだろうか?」という話となり、クライアン  
トと呼ばれている人と面会する形になりました。

クライアント様、どこからどうみても灰色の人でした。



何というか、何を言えればいいのか分かりませんが、とりあえずは言葉・・・というよりも、非接触による念話？による意思疎通は可能でした。

こちらは、すごく甲高い声で、頭に響いた時に、頭痛が少ししましたが・・・

そして、話された説明を聞くに、やはりこの世界の神様という事でした。

この世界に自分が来た経緯と、その状況を説明されましたが・・・疫病神野郎が一枚どころか、二枚に三枚と嘯みこんでいるのではないのか？という具合に、余計な事をしてくれている事だけは理解しました。

本当に、説明を受ければ受けるほど、さらに余計な事をしやがる存在だったと確定されていくのは、なぜなのでしょうか。

簡単にまとめてみれば、とにかく異世界転移しやすいというか、検索に引つかかりやすい体質?みたいな物が、自分という存在事象に”タグ”として埋め込まれていたとか何とか。

なにしろ、タグ云々はレゾンドートルレベルに埋め込まれては、固定化してしまっているため、どうしようもできない、と。

さらに、それをカモフラージュするために、衝撃<sup>チート</sup>スキルすらも、世界側の管理設定ではなく、自分自身の存在事象にすら絡むかのように埋め込まれていたりする。と。

なお、衝撃<sup>チート</sup>能力は、何故か自分自身の存在に組み込まれる形に代わっており、アウトプット制御が本人の意思に委ねられている恰好に変わっているという。

それらが中で、絡み合う形でタグだけが周到に隠されていた、と。

疫病<sup>ク</sup>神野<sup>ン</sup>郎の疫病<sup>ク</sup>神加<sup>ン</sup>減に、頭痛<sup>ク</sup>が痛<sup>ク</sup>くなってくる気分でした。

そうそう、目の前におられる灰色の人も神様でしたので、どうにかならないのですしよ  
うか?という事を伝えてはみたのですが、スパゲッティコード状態になっているため

と、しかも、ダミーとして絡みつかせてる部分がいやらしいほどに分散されていたりして、不可能に近いと。

やはり、アイツは疫病神なのは、確定事項の様です。

ただ、フオローするかのように話された”帰還する方法”は簡単らしく、転移機械と神術の式を併用すれば、いともたやすく行えるからという話が出た時には、すぐさまに食いつきました。

ただ、一緒に”君のフオースは素晴らしい”と仰られてもおり、”しばらくこの世界でフオースを鍛えないか?”と勧誘も受けました。

自分、星々の戦争に興味はありませんが・・・

しかし、そういうのはもう結構です、精神的に参ってるのが理解できるほどです。とにかくお家ウチに返してと、辞退させていただきました。

その後も、”もつたいたい…ああ、もつたいたい…こんなにフォースに愛されているというのに…ああ、もつたいたい…”という言葉、何度も何度も脳裏に響かせるのをやめてほしかったです。

部下の”E”と”T”の人たちが、少し開けた場所に、何やら陣?機械?みたいなのをセツティングするために、時間がかかるとのこと、灰色の人は、簡単に制御できるようにと、フォース?の使い方を教え始めてくれました。

この力?で、多少は抑制できるようにはなるし、修練する事で、少し先や、見えないモノが見える様にもなるからと、簡単なレクチャーをうけていましたが、何も起きなかったとだけ記載しておきます。

そうして、屈強な恰好の”E”と”T”の人たちから、準備が整ったとのことで、開けた場所の中心には、何かしらの文様の入ったプレートが設置されてありました。

灰色の人から、その中に立っていてほしいという事で、従うようにその場所に立って、”それでは、はじめ”との言葉が聞こえてきた時には、帰還装置?が動作したのか、まばゆい光に包まれていきました。

その光につつまれる瞬間、クリーチャーの顔が目の前にあつた様な気がしなくてもなかつたと記憶していました。

敬具

追伸

目が覚めた時、いつもの部屋の、いつものお布団の目の前でした。

ようやく、帰ってこれたんだなあと思っていたのですが、

お布団が異様にモコモコしてる事に気づきました。

モコモコの原因が何かと布団をめくると、

沢山の尻尾らしきものがついてる全裸の子供が丸まっては、

スースーと寝息をたてながら眠っています……………

(  
A  
`  
;  
)  
:  
エ  
ツ  
?  
事  
案  
?  
コ  
レ  
事  
案  
ダ  
ヨ  
ネ  
?  
タ  
イ  
ー  
ホ  
案  
件  
?  
エ  
ツ  
?

EP2：底版いせかいファンタジー

（A、B、C）チガウ！断じて違う！！オレはソウイウ趣味はない!!!

拝啓

白銀の大地が少なくなり、その下の大地から新たな芽生えが生まれ始めてくる時分、いかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

とりあえず、お布団の中に存在する事案からは逃げるように、その場から静かに後退しながらも、気付かれないように部屋から退散してはコンビニへと向かう事にしました。

部屋から出る際、自分の部屋で間違っていないか？という確認作業を行いました。

間違つてもおらず、そのまま同じ部屋という事に、信じたくない心境でした。

そんな、事案案件になりそうな事といえばと記憶をたどって行きつく先といえば、十中八九の確率で、厄病神がもたらしているだろうと結論付けるしかない自分がいました。

それよりも、尻尾が多種多様に存在しているという代物が、どこからどういう経路であの場所にいるのか?と考えてみます。

記憶にもあり、身近に経験しているといえば、あの生物を愚弄しているともいえる多種多様な形容しがたい姿が重ね合わさりすぎた例のクリーチャーに関する事だろうとは想定はします。

が、チラリと見た見た目が”ようし、よ”姿には、どう想像しても、つながりが到底見えない容姿というのに、何だか納得ができかねます。

そもそも、こんな事が起きているという事は、絶対に疫<sup>ク</sup>病<sup>ン</sup>神野郎が故意でやっては、わらつていそうな印象すらあります。



そんな事を考えながらも、とりあえず裸のままじゃ不味いよな・・・と、おふとんをかけなおしては、代わりになる物を買いに、外出します。

昨今のコンビニには、ちよつとした下着などが置いてあるのは、助かります。今は、深夜ともいえる時間帯ですので、こういう時間には、特に助かります。

そうして、途中、コンビニの店舗に向かう最中、トラックを視界にとらえるたびに、嫌なことを思い出しました。

”タグ”が埋め込まれている

昨今、トラックがフラグ的な要素を持っている物が多いと聞きます。

その為に、道路を通りすぎる物体に、つついアレじやないよな？違うよな？と、トラックへ警戒をさらに強める事にしましたが、遠くに遠ざかっていくのを確認しては、安心してしまいました。

そう、安心してしまったのです。

そうして、コンビニの入り口前、そんな場所にハイブリッドな乗用車が駐車しに入ってきているなど思いながら入店しようとした時、突然背後に強い衝撃が走り……

・  
・  
・

次に意識が覚醒したのは、カビくさい古ぼけた建屋の中でした。

人間、こうも立て続けに三度も経験すると、慣れてしまうのでしょうか。

”またか……”という認識しか出てきませんでした。

そして自分が置かれている状況の確認を冷静にしています。

一筋の光が差し込んでくる先を見据えると、そこにはステンドグラスがあり、その真

下には、とても荘厳そうな人物像が置かれています。

ほかには、先ほどの像の周囲も、元は何かしらの装飾が施されてあったかの様な部分があり、自身の周囲には、朽ちてはいるものの長椅子が並べられてありました。

どこからどうみても、西洋風の教会の聖堂の様にしか見えません。

よくありそうな魔法陣？的な物も見あたりませんし、現地人がいる様にも見受けられません。

何しろ、あたりはそのどれもが朽ちかけており、崩れかけた壁からも光が差し込み、整備なりされずに幾日かが過ぎていることを如実に語っています。

こうなると、この教会？と思しき場所の関係者がいる様にも見えません。

これはどういう事なのかと考えてみても、結局のところ、厄病神ク野郎ソの仕業ガが影響していると思えません。

さて、今回も、地球割りをするべきなのでしょうかね？

敬具

追伸

灰色の神様が言っていた不思議な力の事を思い出し、  
たしか、周囲の状況を感じることができるのかもあったよなあ……と、

宇宙の戦争みたいに心を落ち着かせては瞑想して探ってみました。

そんな上手い話があるわけでもなく、なかなかそう上手くいきませんでした。

そんなおり、ふと、そういえばあの”ようし、よ”はどうなったのか？と考えたら  
いきなり例の裸の子供が、お布団の中で丸まって眠っている姿が見えました。

色々な種類、14、5本？の尻尾と、息子サンが付いていないとわかる角度で……エツ  
?

、 A、 ; : チガウ！断じて違う！！オレはソウイウ趣味はない！！！！

、A、∩): アーアーキコエナイ、キコエナイツタラキコエナイ

暖かい風が頬を撫でては通り過ぎ、さらには鮮やかな色を醸し出す植物が芽を花開け、その香りがうつすらと漂わせてくる季節、いかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

瞑想の結果に対しては、一切の思考をぶん投げて考える事を放棄した時、

『タカシ……タカシよ……聞こえますか……？』

という、ファンタジー系ならよくありそうな、ありふれすぎている定番とも言えるセリフと共に、女性の声が聞こえてきました。

どうやら地球割りをしなくて済みそうだなあと思っていると、その考えを読んだのか

『そんな事をされたら、とても困ります……』と、とてもとても困った風な声が聞こえてきました。

とりあえずは、一方的でもない意思疎通は可能という事は確認できたので、現状の状況についての確認を試してみようと思いました。

話を聞くに、どうやらこの世界を管理している神様だそうで、自分の存在というものが、とある界限では有名(?) になりつつあるそうです。

なんでも”偉大なる父”によって遣わされる試練”という言葉で。

意味合いを濁していましたが、どう話を聞いても「厄介者」という雰囲気拭えません。

そうして、自分たちが管理神が管理している世界を簡単に崩壊させるイレギュラーな存在、それが自分という事で危険視……要注意対象……監視対象……と、種々様々な言

い回しによる意味合いを伝えてきます。

ともかくにも、自棄を起こしては世界を破壊されるのは勘弁してほしいので、そうなる前に接触しに来たという事だそうです。

この神様、オブラートに包むという事ができない神様かもしれませぬ。

とにかく、大人しくしててほしいという事らしいのですが『現に二度、世界を壊していますし……大丈夫ですよ？』と、何度も尋ねられました。

二度？という事で何の事かと思いついてみるも、地球割りの回数ぐらしようかんのぎしきいしか思い当たらないのですが、二度目は違うような気もしないでもありません。浮き島みたいなものでしたし……

そう思っていたら『あの浮き島が箱庭世界なのです。それが一つ……』と言われてしまい、何も言えなくなりました。



自分が知らないだけで、世界を崩壊していたみたいです。

そして、現在進行形で多数いる灰色の人の一人、粉碎した大陸担当の管理神が、直しているという事だそうです。

なお、その担当神は、そうとうのサボリ魔らしく、管理不行き届きの尻を拭かされているという事らしいですが……

と、とりあえず、話を変えるべく”元の世界に戻りたい”事を伝えてみました。

すると、”今の段階では元の世界に還す事が難しい”という形で言葉を濁してきました。

何でも、この世界に魔王という存在がいて、その存在がこの世界に干渉してしまつて正確な元の世界に戻す行為を行おうとしても、座標干渉が発生してズレてしまう可能性があるため確実性が無いと。

それでも良ければ、すぐにでもこの世界から転送しますけれど、いかがでしょうか？と、すぐくすぐく熱烈にアピールして、急かしてきます。

自分、どれだけ厄介者なんでしょうか……

とりあえず、その魔王が討伐されるまではと言われますが、討伐できる力を持った勇者様が顕現する気配がないとかなんとか……

こういう場合、血筋とかそういうのでは？と思いましたが、そういう血筋はとうに潰えて、存在しないといわれました。

それならば、よくある召喚の儀式で……えっ？さんざん行ってはみたが、反応が無いと。

そうして、何度目かできるようやく反応があつたと思えば、自分がこの世界にきていたと。

……もしかして、自分の存在が勇者召喚の邪魔をしていたのでは？と伝えてみたところ、『……、アッ！ソレです!!』という言葉が聞こえてきました。

とてもとても嫌な未来しか見える要素がないなと思いました。

敬具

追伸

アー、コチラ、タカシです。

本来の勇者様、召喚にお応えてください。

先程から、勇者代行を懇願されています。

ほんと、自分を助けてください。お願いします。

( ,  
A ` ∩ ) :  
アーアーキコエナイ、  
キコエナイツタラキコエナイ

( A ) ……

ウワア・・・ナ

イワア…

新たな芽吹きから、スクスクと成長していく植物が、時節とともに変わりゆく中、いかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

今代の勇者の代わりという懇願を何度も何度も頭の中に響かせてくるのにウンザリし、瞑想を加えてシャットアウトしようと思いましたが、やはりうまくいきません。

しかも、現実逃避ゆめのせかい中も虫の羽音の様に懇願しつづけてくるという、異様にウザい嫌がらせを実行されてから、もうこの世界壊れてもいいよなあと思ったりしました。

急に手のひらをクルリと変えてくるのは如何なものかと思えます。

ただ、壊してしまうと元の世界どころか転移すらできなくなるという事も言われまし

た。

どうやら、この世界自体に転移に関する記述が埋め込まれているらしく、壊してしまうと転移関連が上手く働かなくなるという事らしいです。

そうして、急に大人しくなったかと思えば、今度は力を授けますから願います。本当にお願います。と、涙ながらに訴えてきました。

力、つまりチート・・・正直、ろくでもない物がすでに備わっているので、まったくもって不吉な予感しけません。

そういえば、こういう不吉な予感的中率が格段に上がっているきがしないでもないです。

これも、灰色の人が言っていた不思議な力の賜物なのでしょうか。

不吉な予感が出てきたので、丁重にお断りをしていたのですが、こちらの言葉を見無視するかの様に話してきたその力というのが、この世界には魔法があり、その魔法を特化

させたものと。

正直な話、魔法という言葉に、とてもとても食指が動きました。

やはり、こういう異世界物といえば魔法。この言葉は少年心を呼び覚ましてくれます。

と、とりあえず、どういった魔法をと聞いてみたところ、神聖属性は勇者専用みたいな物ので無理だけれど、その神様がもつ属性の一つ、光の属性なら。という事でした。

光・・・ですか。

ほう・・・

たしかに、ほかの作品ではレーザー的な物を飛ばしたりするものもあつたと思います。

そんな感じなのでしょうか。

指先や手のひらから、ビーム的な何かが飛んでいったりと、まさに少年誌の格闘漫画にあつた様な事が出来ると。

少年時代、傘を逆手にもつて振り回したり、突き刺す行動をしていた思い出と、少年心がクスグられては、魔法を撃つてみたいをいう衝動にワクテカがとまらなくなつてきてしまい、了承してしまいました。

この時、嫌な予感よりも好奇心が勝つた事が、「好奇心は猫を殺す」に繋がるとは思ってもよらなかつたと思います。

そうして、ものは試しとして力を授かつてみて、初めての魔法を撃つてみました。

詠唱はとても恥ずかしく、黒歴史になりそうなので脳内で省略し、「レイ・アロー」という、これも中二病がごとの言葉を発したら、ちゃんと構えた手から光線？の塊？みたいなので飛んでいきました。



おおお!!と、口から言葉が漏れ出るぐらいに、感動ものでした。

次に指先から、腕から、某光の国の巨人が光線をうつポーズからも、あと、どこぞのミュータントみたいに目からビーム的に出たのはお約束なのでしょうか。

そして、”飛ばすだけ”なら、どうやら爆発四散しない様です。

これ、かなり重要な発見だと思いました。

まあ、威力は最低限的なイメージでの実証実験でしたが、その後、この魔法に関する説明を聞いて、とても後悔しました。

”貴方に授けたのは、光属性です。光に関する全てを操作できるようになっていきます。もう授けましたら、返品不可ですよ？なので、かならず勇者代行の使徒として頑張ってください”

”それと、関係各所に神託として伝えてきます”

と、その後、声が聞こえる事はなくなりました。

エツ?・・・今何と?

色々と、不穏すぎる言葉が聞こえては消えていきました。

やはりこの女神様、どこかの水の女神のごとく”駄”がつく女神様と同じなんじゃないかと思いました。

押付け的な事は、まずは置いておきますが、光というものは、たしか粒子でもあり波動でもあり、量子も電磁波もと、とにかく色々あります。

細分化していけば、それはもうたくさん色々な種類がありますが、それらの中で

今、一番ヤバイのが頭の中に思いうかんでいます。

## 電子に陽子に

中性子と・・・

”この世界と自分の世界とは異なり、光に関する全てに含まれていない可能性もあるはず。結論を出すのはまだ早い。まだ、あわてるような時間ときではない・・・”

そう、予想が違う事を願いながら、恐る恐る雑草の一つに手のひらを近づけてニュートロン中性子ビーム”的な事をイメージしてみました。

光が発生する事すらなく、ふれた部分が黒く焼けただれて朽ちていつては、小さくポフツという感じで粉となって消えていったのを、ただただ固まりながら見る事しかできませんでした。

敬具

追伸

ロマン的といえ、他にも色々の超能力的なものはあるとは思いますが、実際にそういったモノが生身の身体で行えるところとわかると、ロマンだとかそういうのを一切合切すつ飛ばして、一切何も感じなくなるという事を記録しておきます。

( A ) : …

ウワア・・・ナイワア…

(、A、;) : ドン引くわな……自分でも引くわ……

雨音が鳴り響き、外に出る時間よりも内にいる時間が多くなりそうな季節、いかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

今現在、神輿に担がれ（物理）て移動しています。

神託が下されたという事で、寂れた教会？へと一斉に押し寄せてきた信者？たちに連れ出される様な恰好で、神輿に乗せられてしまつては揺らされる形で移動しています。

”もう、どうにでもなれ”という心境に近いあきらめの境地で、移動されてる間に、前回の事を思い浮かべました。

あの後、他にもと試してわかったことといえば、歩く核兵器に成り下がった……いえ、

成り上がった……？

どう言えればいいのだろうか、正直、まったくもってよくわかりませんが、自身の危険度が、疫病<sup>ツ</sup>神野郎レベルに上乘せされる形で、さらに向上したモノになったのは確かだと思います。

そもそも、X-raysを意識したら照射されていた雰囲気ありましたし、もしかしてとγ-raysすらと思つたら、ニュートロン以上に黒く赤熱して散つては粉となりチリとなつていったという実証実験結果に察しました。

γ-raysが操作できる。

という時点で、その最大級というのを考えた時”γ-ray burst”レベル以上をやれてしまう可能性が出てきました。

そうなつてしまつたら、この世界の女神様はどうするつもりだったんでしうか。

戦術級の核兵器どころか、戦略級すらすつとばして、生命体がいる惑星生命根絶級になってしまいうぐらいの危なさすぎる代物だというのに。

あ、そもそも自分、とつくに惑星破壊級でしたね……いまさらですか……

それは置いておいて、もっというならば、 $\gamma$  ray以外にも今までの実証で分かった操作できと思われる光に関する量子？粒子？を、大量に操作してぶつけあったりしていたら、blackなholeすら作れるかもしれないレベルで危なさ過ぎる”力《チート》”です。

チートって、ズルとかいうんですけど、このクラスになってくると、使いどころがというか、使ったら最後過ぎて、ズルと言えるのでしょうか？という疑問がよぎってしまいました。

あれ？これどこかで考えた事があるような……つて、これ何てデジャヴ？

現代社会の平和的な利用というのを、この異世界でも考えさせられるというのは、いかなものなんでしょうか……環境破壊は、どこまで許されるのでしょうか……などなど……

……これは、ダメです。

どうやって、マイナス方向に思考が誘導されていつては、今後どうしていけばいいのやら、わかりかねてきています。

そうこう考えている時に、外が何だか騒がしくなったかと思えば、なんでも魔王軍の襲撃が来たとか何とか。

しかも、見事な包囲戦がしかれるぐらいに。

女神様の神託、漏洩してたのではないのでしょうか……？



自分には対抗できる以上のチートがあるのですが、やはり代物が代物すぎて使うことに戸惑ってしまいますが、護衛役と思える騎士甲冑姿の人が一人、また一人と倒れていくのを目の前で見せ続けられていたら、こういう力は”今使わなくていつ使うのか？”までしょ!”というお約束的な質問と回答的な言葉が脳裏によぎりました。

・  
・  
・

ここは意を決しては、力を使って対応すると伝え、さつきから何故かわかる敵性勢力を感知しては、レーザー的なレベルのをイメージして複数の相手をターゲットイングし、ついでにホーミングするレーザー的な要素を加えてから両手を付きだし、光の魔法……えーっと、もうγ-raysでもneutronでもいいから、一斉照しや

いきなり一斉に崩れ落ちていきました。

それはもう、飛ぶ鳥（魔物）？も落とす勢い（物理）で

敬具

追伸

黒い丸印状の穴や傷跡がついては、敵対勢力を一掃する事はできたみたいです。というより、どうみても生命とは見えない像的な存在？すらも倒れています。

そうして、あたり一面が死屍累々（現実）となっているなか、

信者さんたちは、神の奇跡だと言って喜び勇んでました。ですが、こちらに向けられる目には、ハイライトが消え、畏怖以外の何物でもない物を向けてこられます。

、 A、 ； : ドン引くわな……自分でも引くわ……

、 A 、 ; : エッ?アツ?外国の人! : : フ、フ、フー・アー・ユー?

小暑が過ぎ、夏本番を迎えますが、暑さに負けずご活躍のことと思います。

タカシです。

あれから、大きな街?の神殿へと連れ込まれる形で軟禁?されながらも、数日?数月?  
?が立ち...

というか、陽の光すら入ってこない、風呂トイレ付の豪華な、まさにゴージャスとも  
いえる部屋?屋敷?から一步も出られないという状況は、もう監禁では?と思います。

そんな折、三食昼寝付きのニート?生活にほとほと飽きてきた頃、神輿に担がれるま  
まに魔王討伐隊なるものが結成される形になりました。

そうして、あれよあれよという間に魔王がいるといわれる大陸に向かつては、降りか

かつてくる火の粉を攻略（やんわり表現）にしながら進み続けました。

これまでの旅で問題があつたとするならば、随伴されている鎧甲冑姿の方々や聖職者姿の方、雑務を行われる方々と、とにかく自身の世話に近い人たちが、みな女性という点でしょうか。

こういった状況を鑑みれば、”異世界チートハーレムじゃないか!”と思われる方がいるとは思いません。

ですが、ここで違うのは、みなさん目が死んでいます。

それはもう、こちらを見る視線に”ハイライトがありません”という状態です。

旅路が続けば続くほど、魔王軍なる敵性勢力を撃破していけばいくほど、それはより一層顕著にあらわれており、こちらから声をかけてみるも、身体を強張らせては、怯えた状態になります。

いただく食事なども、震える手で持ち込まれる状態です。

何もかもが”恐れ多い”という事を言われますが、本当に「恐れられている」としか  
思えません。

特に、こちらが一番まいった事と言えば、夜、眠っていたときに不穏な気配を感じて  
目を覚ますと、女性の方が完全に死んだ目で感情もなく部屋の中に立たれてこちらを見  
続けていました。

正直、怖すぎです。

心霊的なホラーと言うより、サイコ的なホラーすぎて、心がまったく休まりませんで  
した。

なので、用が無いときは近づかないでほしいと願いました。

その後も、何とか信用と信頼の・・・いや、自分が安全であるという事を知ってもらおうと、お手伝いをしたりと努力してみようと思いました。

ですが、それらお手伝いを行おうとする度に、魔王軍(?)が空気を読まずに強襲をかけてくるため、その都度対応していけばいくほど、隔たりが大きく発生しているのを肌で感じてしまいます。

そうして、信頼の回復どころか、こちらに畏怖の念が大きく成長した状態で、魔王がいるという本拠地が見える場所までたどりつきました。

正直、やっと終わるのか…と、安心していた自分がいました。

目の前に見える魔王軍の本拠地・・・

いえ、お城ではあるんでしょうが、こちらが思っていた西洋風ではなく中華風とでもいうのか、周りがしつかりとした石壁で、正方形みたいな城壁?で囲まれているといった感じです。

そして、そのほとんどが黒塗りというのが、とてつもない威圧感を感じさせてくれます。

また、その石堀の周辺には、見渡すだけでも、空も地面もとんでもない数の魔物たちが隊列をなして埋め尽くしています。

これが、俗にいう「船が七分に、海が三分」という奴でしょうか?

ある意味、存在数がとてつもないその魔物たちの集団を前にしていました。隊長格と思しき人の”我らには使徒様がおられる!天は我らに味方している!突撃!!”という怒声とともに突撃していく討伐隊が・・・

つて、ええええつえ?!



こちらが、何故にそういう行動にとったのか？と驚くまもなく、担がされている神輿（物理）と一緒にあって敵陣まったただ中に運び込まされていく自分という存在です。

神輿に乗っているのは、現代人の体力なめてはいけません。

そんな高い位置から見渡せる内容は、“多勢に無勢じゃないのか？”と思ったのですが、危険な感じが一切感じる事もなく、目に入るモノすべてを無力化？灰燼？していつてる自分がいるという始末です。

たまに、“どこからともなく飛んでくる飛び道具”みたいなのがあつたりしますが、気にしないでおきます。

今までの道中でもあつたことなのですが、なんとなく“危ないかな？”という感覚があり、その場所を避けておくと、あたる事もなく躲す事がわかっていました。

今回も同様に火の粉をはらっていつてましたが・・・やはり多勢に無勢です。

自分がよくても他の人たちはそうもいかず、魔王城から、絶え間なく次々と現れてくるクリーチャーも含まれる大群によって、徐々にこちらの方々も倒れていきます。

やはり、こんなに相手が多いとまずいよな・・・と思い、こうなりや思いつく事の出惜しみは無しにしたほうがいいなど、意を決しました。

空を見上げてみれば、さんさん燦々と輝くお天道様があります。

道中、あぶない光線の類はやめておこうと心に近い、別の方法を模索していました。その答えとして、太陽光を集光し、ソーラーのレイ的なものをパク・・・思いつきました。

光の屈折を調整できる事は確認済みです。

そうして、集めるだけ集めるために腕を蒼天に掲げては意識を集中し、とにかく集めるだけ集めた、集光したものの相手の居城に向かって攻撃をと、光魔法で構築を操作しては腕を振り下ろし・・・

一瞬世界が暗闇に閉ざされたかと思えば、次の瞬間、目が明けてられないほどのまぶしい光があらわれたかと思えば、大きな風が吹き荒れ、こちらも神輿から振り落とされるほどでした。

その後、目に入った光景といえ、晴天にそびえたつ、大きなきのご雲を見上げて：

あるえ・・・

えーつと・・・

そうは、ならんやろ・・・そう思いたかったです。

後に残るは、いつの間にかいなくなっていた魔王軍？たちと、更地？灼熱帯？と、いったところでしょうか・・・

と、とりあえず、そうして魔王?は滅んだみたいです。

なにしろ、その後には女神様が降臨し”魔王は滅びました”という言葉と共に公認状態のお墨付きとなりました。

魔王、見たことないんですが、これでよかったですでしょうか。

とりあえず、降臨された女神様は金髪ブロンドの美しい定番的な方でした。

敬具

追伸

(駄) 女神様からお声をきいて、ようやく元の世界に戻ってきました。

数か月の旅路だったとは思ったのですが、

飛ばされたその日のコンビニのトイレの中で、

よく見るハイブリッド車がコンビニ店内に突っ込んでました。

ああ、これが噂の踏み間違いなのだなと思いました。

そうして、自分は関係ないなど買い物を済ませては、アパートへと戻り、玄関を開けて懐かしい我が家（賃貸）へと入ると、

「お待ちしておりました。主様」という言葉とともに、白く輝く人型の何かが目の前にいてカタマリました。

（、A、；）：エツ？アツ？外国の方!?!：フ、フ、フ、フー・アー・ユー？  
〈タカシは混乱している〉

EP3. 0 : Hi 日常ふあんたじい (初)

(, A、) : ウツ : コ、コレハ : ソウ”トウトイ” : キット  
ソウ : ソレ以外無イハズ :

昼とは変わり、夜になると風が涼しく感じるようになってきた時分、いかがお過ごしでしょうか。

タカシです。

光の人型が現れており、視線を下にむければ足どころか下半身も見えずに、床が見えているという存在であったため、頭の中で混乱が氾濫をきたしました。

恐る恐る、顔?と思しき箇所を見てみようにも、顔の所すら白く光っている存在(のつぺりな顔と下半身が無い)が目の前にいる時点で、思考がかき乱されてしまいます。

心霊現象というものを間近で体験すれば、誰しもそうなると思います。

パニックに陥っている自分をよそに、相手側は逆に落ち着いた様子で”危害など加える気はありません。主殿”と、あるしこちらをなだめてこられました。

そうして、部屋へと進められる様に（自分の部屋なのになぜ？）と思いつつも入っては、お話をする事になりました。

ここ、やっぱり自分が借りてる部屋だったとは思うのですが・・・  
テーブルにお茶を出してこられるのはなぜなのでしょうか。

とにかく、心霊的な物はあまり良い思い出がありません。

幼少のころには、肝試しといわれて鎮魂の碑とかにつれ回されましたが、あの取り囲む白い集団が、自分にしか見えていないとわかった時には・・・

いえ、なんでもありません・・・何でもありません・・・

”その、光る人型とのお話の結論からいいますと、心霊的なものではなく” 光的な存在  
” だそうです。

こころより、よかった・・・と思ったのはこの瞬間でしょうか。

何でも、例の女神様から賜った能力が、元の世界に帰るとき、その能力を分離する事を忘れていたみたいで、自分が世界を渡るとイレギュラー的に分離しては自我という物が発露したとか何とか。

なので、主<sup>あるし</sup>殿が、つまるところこの自分が、父でもあり母でもあるとか何とか。

いや、後者の母というのは違うと思うんですが。

こういう面倒ごとには、返品をしたいのですが、  
えっ？返品不可と言われている？そういえば、そうだったような？

まあ、状況は、おおむね、だいたい、たぶん、解りはしましたが、納得ができない状



況に陥っています。

どうしたものでしょうか……。

それよりも、現状、テーブルの正面に光る人型というのは、何というか、心霊的な存在に見えない事もない訳で……

まずは、そのところをどうにかした方が良いと話しました。

すると、見た目から人型と思つたのですが、そう伝えると、淡く光ったかと思えば、女性の体つきで固定されました。

黒髪の白い肌、目はどこことなく赤く……あれ？

どこかで見たような？

ああ、そうそう、遠征軍にいた、一人の

”主殿あゐしが好意をもたれていた方を模しました”と

・  
・  
・

・  
・

OK、その情報はどこから仕入れたのか？と、聞き出したくなりました。  
そうして、聞きだして見たところ、何でも、自身の中に存在していた時に、その情報を  
知りえたと。

・  
・  
・

OK、この話はこれ以上はやめましょう。

これ以上深く掘り下げるのはいけない、と直感が伝えてきています。

ええ、ええ、とてもとてもいけないと訴えてきています。

そのため、思考と会話をほかの方向へ向けさせていただきました。

今現在の状況を客観的に列挙してみます。

目の前にいるのは、一糸まとわぬ女性姿が一人

お布団の中では丸まって寝ている、一糸まとわぬ幼女が一人

犯罪臭がとてつもなく濃厚な空間となってしまうています。

とりあえず、服を着てもらえる様に願うと、一瞬で衣装を纏ってくれました。

”えっ？何？どうやったの？と疑問を呈していると、ただ”そういう風に見える”様にしたと。

幻影か何かでしょうか？さすがは光属性のお人です。

ただ、体のラインがはつきり見える、ピッチリ系の代物はいかがかと思ひ、えっ？好みに合わ

・・・OK、だからその話はやめましょう。

見えるだけの事で、本質は一糸まとわぬ姿との事だそうで、何も解決されていない気がしないでもなかったです。

他には、見えなくなる事も可能というのと、自分が授かっていた能力とはいえ、もともとは自分の能力であつたため、”自分の中”に入る事も可能だそうです。

実際に自身の中に入った時、”主殿あるじの中、とても暖かく感じてしまいます”と言葉が脳内に直接響いてきた時、別の何かを連想してしまつたのは置いておきます。

また、ちよつとした壁程度なら、光特性の変換ですり抜けれるとか何とか。

見えたり見えなくなったり、壁を出たり入ったり。

もうこれ、心霊現象なんじゃないかな？と、思つたりしました。

そこで、思いついたのですが、それらの現象を”霊のアレ的なソレと同等ではない”と払拭するために、説明しながら試す形で行ってもらいました。

行つた事といえば、赤外線でトーストを焼いたり、マイクロ波で水を温めたり。

ん。それらが出来たのを確認した時、電気代節約できそうで便利かも？とは思っていません。

ええ、思っています。

霊的な何かでない事を確認したまでです。

その後の事は、よくわかっていませんが、とてもとても眠たかったことは覚えているので、どうやら眠ってしまったようです。

追伸

翌朝、眠っていた幼女が目覚めた時、開口一番に”パーパ”と呼ばれたのは堪えませんでした。

そして、光属性の存在を”ママ”と呼んでいました。

その光属性の存在の人、そう言われて満更でもない表情やめてください。

後光を出して座りながら、膝もとに抱き着いている”ようし、よ”を慈愛の目をしながら優しく頭を撫でている、そんなとても絵になる姿を見せられ…

(  
A、  
)  
:  
ウツ  
:  
コ、  
コレハ  
:  
ソウ”  
トウトイ”  
:  
キットソウ  
:  
ソレ以外無イハズ  
:  
:

（、A、）：あー、今度はそういうパティーンか・・・

緑生い茂る山々が、色を変えては視覚で季節を感じれる時分、いかがおすごしでしょうか。

タカシです。

人間、疑問や問題を放り投げる事をするのは、余裕のない証拠なのか、それとも達観する事で心の平穩を取り戻そうとしている証左なのでしょうか。

兎にも角にも、幼女と女性が日本語を話しているという事に、疑問の念をいただきましたが、かなぐり捨てておきました。

どうせ厄病神野郎がらみである事は、想像に難くありません。

そこで、二人の名前を聞き出してみたのですが、二人ともに何ともいえない回答を頂きました。

” けんたいさんじゆうさん ” と ” 光属性 ” という内容で。

固有名詞なのか敬称なのか呼称なのか、いえ、れつきとした名称ではあるのでしょうか・・・実際、何ともいえなくなるという体験をしました。

想定はできる範囲でもあるのですが、特に幼女の方が酷すぎるという印象にかられました。

なにせ、その言葉の意味としたら、多分、” 検体 ” という名に数字の ” 三十三 ” が足されているという・・・

つまりは、そういう事なのでしょうか。



元があのクリーチャーであると、なかば確定する恰好にはなってしまうましたが、元の姿に対して自分は、そんな事に気付かないまま、かなりぞんざいな扱いをしていたと記憶しています。

にも関わらず、こちらにも笑顔で抱き着いてくる幼女をみてしまったら、とても心が痛かったです。

そうして、“そういう過去”を忘れてもらうという意味を含めた“新たな名前を決めてしまおう”と説明しました。

光属性さんは特に反対意見もなく、“主<sup>あるし</sup>殿が決めて頂ければ”と言われ、幼女の方は  
“といえば、”パーパ、何でもいーよ”と健気な笑顔で抱き着いて再びスリスリしてきます。

その屈託のない感情に、心がとても痛かったです。

ただ、一緒に匂いを嗅いでる？ 擦り付けてくる？ のは、やめて頂きたいなあと。

そうして、光属性さんは”レイ”と、幼女の方は”テール”としました。

光属性さんはそのまま光線<sup>RAY</sup>からだし、幼女の方は多種多様な尾<sup>TAIL</sup>からですし、安直と言われればそうであると受け入れる覚悟があります。

が、二人共、”レイ”と”テール”と呼びあつては、喜んでくれているみたいで、良かったと思います。

とくに、自分を”パーパ”、光属性さんを”ママ”、そして”テール”と指さして確認

する仕草に、こう・・・癒しを感じてしまった自分がいたりしました。

そうして、少なくとも、連休中である最中に、これからの生活に関して、現代社会の知識を覚えてもらおうと、色々教えていけないといけないかな・・・と。

何しろ、あの疫病神<sup>ツ</sup>野郎が、元の世界に戻すとかいうのは、絶対感にあるはずがなさ

そうです。

なにしろ、嫌がらせをするなら、そうしてくるほどでしょう。

部屋の中の情報端末といえ、パソコンにテレビぐらいしかなく、パソコンの操作を・・・えっ？レイさんは解る？なんで？記憶から見ていたサイトを・・・

OK、そのブックマーク的な話は削除しておいてください。

レイさんは、キーボードやマウス操作をするのをやめては、パソコン本体に腕そのものを突っ込んで、映し出される画面がコロコロと切り替わっていき、色々と知識を吸収しているらしく、”ほうほう・・・なるほど・・・”と言っていたりします。

ただ、どうみても国外の何か偉い処の紋章？憲章？が映し出され、閲覧している様な画面になっているのは、見なかった事にしておきます。

そもそも、光属性って、電気的な要素・・・あ、電子操作ですかね？

他にマイクロ波とか操作できましたし、過去の自分はガンマ線まで・・・

そう考えると、レイさん、現代社会においては、とてもとてもヤバイ存在なのでは？

・・・これ以上、考えるのはやめておきます。

とりあえず、レイさんの方は放置するとしておいて、一方のテールの方をみてみれば、レイさんの魔法(?)で衣服らしい姿勢恰好をしながら、定番ともいえる某教育番組に釘付けとなっていました。

ただ、一緒になって踊っているとき、尻尾群が振り回されているのをみては、あぶなっかしかったので床机を片しておきました。

こうしてみると、片方はほのぼの、片やSFなサイバー?そんな風に見える変な空間が出来上がっているのは気のせいだと思っておきます。

そうして時間が経過しては、小腹がすいたなど時計をみるに12時になる頃合いにな

り、そろそろ昼飯かと思いい立って冷蔵庫を開けてみるも、レトルト食材と少ない冷凍食品しかありません。

三人分？レイさんは食事いるのか？と疑問には思いながらも、三人分と考えれば足りなさそうなので、二人の邪魔にならないように、静かに食材の買出しに出かけようと玄関を開けると・・・

その向こう側は一面の花畑でした。

敬具

追伸

玄関の扉を閉め、背後を確認するも自分の部屋（賃貸）でした。

ふたたび玄関の扉を開けると、今度は薄暗い岩窟らしき場所。

もう一度、扉を閉めて再び開けると、今度はレンガ積みらしい廃墟が見え・・・

( ' A ` ) : あー、今度はそういうパティーンか・・・

EP4：お約束系？ふあんだじー

（、A、）：今度はお約束系ファンタジーだったか……

朝の早いころ、河川から白い水蒸気が立ち込めては、空気と液体の寒暖の差を知らせてくれる季節、いかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

玄関のドアを開け閉めするたびに、色々な世界がコロコロと変わっていく様は、正直な話、いかななものかと思えます。

そして、自分のとつていた奇怪な行動を、体操が終わったテールが目撃するや否や“テールもするー！”と目を輝かせてながらダツシユで近づいてきては、扉を勢いよく開け閉めしはじめました。

それはもう、扉のヒンジさんが悲鳴をあげそうな勢いで。

ですが、テールが開け閉めすると、通常のアパートの通路と夜の街並み世界が広がる光景が繰り返し映し出される形にしかならなかったため、”つまんない……”といって不貞腐れ始めました。

仕方がないので、自分が再び扉を開閉すると、そこには真夏の太陽なみの日差しが：なぜ二つあるでしょうか？見渡すあたり、一面砂というか、砂漠まみれで……サソリ？みたいなのがコチラに近づいて……というか、車なみにでつかくなくないでしょうか？

危険を感じたので、急ぎ扉を閉めました。

そして、再び開けると、今度は一面銀世界……

いや、銀世界（比喻）ではなく、本当に銀色の一面というか、液体というか……これ、液体の金属……その中から、メタルなスライ……

これ以上はいけない。

そう判断し、急ぎ扉を閉めました。



そんな体験をしながら、その変わる世界にさらに目を輝かせては、”もっかいやつて！もっかいやつて!!”とはしゃぐテールにつられて、数回ほど開け閉めはしたと思います。

これらの事で分かった事といえば、どうやら、自分の手で玄関の扉を開ける事がトリガーになっている模様です。

こうなってくると、”玄関以外に問題は無いのか？”という疑問と不安にかられ、それらを確認するべく、玄関とは正反対の位置になるガラス窓を開けてみると、あたり一面に青い空、すぐ傍には白い雲海が広がっては、澄んだ風を肌で感じさせてもらいました。

それよりも、”くーもー!!”と、はしゃいでいるテールが、小さな手すりを乗り越えて、落ちないようにするのに必死でしたが。

扉や窓という概念がいけないのか？と、今度は押入れのふすまを開けてみると、こちらは普通に押入れの中身を確認しました。

トイレはやめてくれよ……と、不安に駆られました。どうやらトイレと風呂場のシステムバスはセーフでした。

「どうやら、外との扉や窓に限定されているのでしょうか？」と、推測をしていたら、レイさんが「床下の空間が変化しているみたいです」と、伝えてきました。

床下、つまりは畳の下か？と、中央のタタミを一枚めくってみると、その先にあったのは、金属の壁の部屋？椅子も何だかハイテクっぽいような……そして、ガラスの向こう側は宇宙空間……みたい……な？

よし、これは無かった事にしよう。

そう決断しては、そつと畳を元に戻しておきました。

宇宙の開拓の歴史に名を刻むという事にならない方が良いに決まっています。

そうして、”元に戻ったみたいですね”という、お墨付きもあり、一難はさった模様でした。

さて、検証の結果、自分から外界、つまり部屋から外につながるなんらかのモノを開閉しなければ問題ないといったところでした。

とりあえず、テールに扉を開けてもらって買出しを済ませてくるかと、留守番をお願いしては、レイさんに面倒みてほしいと頼んで出かけました。

業務用と書かれてあるスーパーのお店に設置されている自動ドアでは、外界だろうが影響がなかったのは幸いでした。

そうして、タイムセールで割引になっている弁当と、お茶に紙コップと、お箸は無理

そうだから、スプーンとかかな？と、若干の日用品も一緒に買い込んで、嫌な雰囲気を感じたところを迂回する恰好で、かなり遠回りで帰ってきました。

ちようど、自身のお腹が軽く鳴り、”二人とも、腹すかせてるだろうなあ”と思いつつ、いつも通りの無意識な形で玄関を開けて部屋へと一步はいりこむと

いきなり落下する感覚を覚えました。

敬具

追伸

”主殿、無事ですか?!” ”パパ！大丈夫？怪我してない？”

そんな二人の声が聞こえてきては、気が付きました。

たぶん、レイの明るい服のおかげなのか、周辺の様子が見えてきます。

カビ臭く、ホコリ臭いので、どこかの人のいない建物の中といったところ……  
……?!

はつきりと視界に入った二人をよく見ると、

一つは明るく光る小さな妖精の恰好をした存在と、

もう一つは、こちらを心配そうに見つめている立派な双丘を携えた、

獣耳と多品種の尻尾をつけている、よくある獣（割合が高い）娘さん、

そして、二人の間の空間に浮かび上がってる、透明な自己評価の画面が……

（A、）：今度はお約束系ファンタジーだったか……

、 A 、 ; : 文字なのか、数字なのか、記号でいいのか……

季節行事の中で、投げる豆よりも食す豆の数が一つ多くなつては、寄る年に気づかされる頃合いになりましたが、いかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

” な〇う系？お約束ふあんたじー ” の定番ともいえるウィンドウ画面が目の前に映し出され、その内容をチラ見してはスルーすることにし、状況確認をしていく事にしました。

まず、先ほど声をかけてきたレイさん？といえば、手のひら妖精サイズになっており、その衣装も、出かける前に着用していた衣装とは異なっていました。

特に、薄いピツチリとした布切れ？を身にまとつては自分の近くで浮かんで？飛んで？という感じで宙に存在している姿は、どこかのティンカーのベルの様にも見えます。

また、どういいうわけか、身体全体が発光しているのかと聞いてみたら、” この薄暗い

部屋の中では、灯が必要かと思ひまして”と、照明の代わりになってくれていました。

一方のテールの方はといへば、少し・・いえ、かなり成長した身体になっているみたいなのですが、どこかの動物によつてゐる、そう、名探偵なワンコの大家さんのスタイルが、服を着ていない状態でした。

まあ、服を着ていなくても、体毛？毛皮？まあ、そういうものでそういったところは隠されて見えはしないのが、いろいろと安心といったところですよ。

そうして部屋の中身を確認するも、ところどころにカビが生えている木板があり、小さな囲炉裏らしきものと、何かしらの道具といえるものが、壁に立てかけてあったり、棚に置かれてある状態です。

板張りの床がある時点で、物置と言うよりは作業小屋といったところでしょうか。

部屋の中を一通り確認し終わると、今度は外の状況が気になります。

”特段、周囲には危険になりそうなものは無い物と確認済みです”と、耳元からレイの声を聴いてから、いざ扉を開けて外に出てみました。

外は月明かり的な明かり程度。

そんな薄暗い中でも、レイさんの明かりのおかげで周囲を確認するも、パツと見た目は木々が生い茂る森といったところです。

外から出てきた建物をみやれば、まさに古ぼけた小屋といったところでした。

傍には、ちよつとした薪置き場や、作業場所があつたりする点で、一応は使われている木材小屋？とでもいうのでしょうか。

別段、特にこれといって変わった内容・・・いえ、変わりすぎた状況ですが、今迄のパターンからいえば、神様な存在が現れては、元の世界へ送り返してくれるという手順が続いています。

”とりあえず、何かしらの相手側のアクションがあるまで待つてみるか・・・”と、何か手に持っていたスーパールのビニール袋の中を確認しては、”いったん晩御飯にしよう”と提案しておきました。



追伸

自分の膝枕で眠りだしたテールを寝かしつけては、

”相手側かみぎはのアクションが無ければどうしようか…”と、考えながら

すてーたすたすういんどうすういんどう（笑）を眺めていました。

内容的には定番的な代物ばかりと推測しますが、

マイナマイナな予感しかでてこない部分がとても酷かったです。

P  
ō  
:

、  
A、  
：文字なのか、数字なのか、記号でいいのか……

( ' A ` ; ) : S ( すこし ) F ( ふしぎ ) な成分すら、走り過ぎて行ってね？

桃色の花びらが、季節外れの大雨によって流されて行つては、河川に華やかさに一瞬でも満たされる時分、いかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

現在、お約束ともいえる冒険者という組織に与しながら旅をしています。

結局、あの晩から相手側のアクションがなく、いつもの地球割りを行おうとしました。ですが、その行為を行った後に残されると推測する、レイさんとテールの二人が”最悪巻き込まれて・・・”と、よろしくない状況を推測したため断念しました。

そうなる、元の世界に戻る方法を考えてみたのですが、今まで神様だのみである事

には変わりなかったため、”こちらから会いに行けばいいか”という安直ともいえる思考で行動を開始しました。

そうして、猟師小屋を後にし、ふもとにあつた村に行つては情報を仕入れ、町に行つては”よくあるふあんたじー”で登場する互助会的な組織に与して身分証を確保して、といった形で旅をする形になっていきました。

旅をするには旅銀を稼ぐ手立ても必要なのですが、この互助組織の制度を使えば行く先々で確保できるといえれば出来ました。

が、

結論を言えば、自分、ヒモ状態としかいえない状況にしかありませんでした。

特に、金銭の稼ぎが良い魔物討伐というのがあつたのですが、魔物の素材または討伐証明部位が必要という事で、（推測はできてましたが）自分が攻撃的なアクションを起こ

してしまおうと一切の価値が無くなります。

当前の話でしょうか。

いつもどおりに粉微塵になった対象は証明にも素材にもなりえません。

仕方なく、当初はレイさんに”危なくない”光魔法で仕留めてもらいました。

レイさんというには、今まで以上に扱いやすくなったとのことで、何でも電磁波<sup>レイダー</sup>? や赤外線? を使って相手の位置測定が容易になったからと、空に飛びあがっては、数km先の相手に対してホーミングするレーザーの様に光線が一瞬現れたときには、すでに終わっていたりします。

ね．．．  
というか、めちやくちや屈曲する光って、その方法っていったい何なんでしょうか

なあと印象がありました。  
そもそも、近代化してるのか、現代化してるのか、未来化してるのか、ごちゃまぜだ

また、テールの方も大活躍していききました。

その大きな手で獲物を切り裂いたり、身体に鱗が現れては・・・顔もややトカゲ？風、髭あつたりするから龍？みたいなものと混じりあつては、いきなり目の前から消えて、次の瞬間には獲物を仕留めて持つて帰ってくるなど大活躍をし始めました。

ただ、血まみれで帰ってきたとき、どこか嬉しそうにしている表情を見せては、身体をこちらに擦り付けて汚れた血液がこちらに擦り付けてくる行為に、サイコパス的な何かを感じたのは、気のせいにしておきます。

そうして、返り血で”ふわふわ毛”が”ゴワゴワ毛”に代わっているのは、ちよつと頂けなかなあと常日頃思いながらも、身体を洗つてはブラッシングをするのが日課になりつつあります。

というか、ブラッシング後に、上機嫌になっているのはわかりますが、力強く抱き着いてくるのはやめてください、身体からミシミシという音が聞こえてきます。

そして、頭をぐりぐりしないてください、そこ、鳩尾に入つてきてきついです。

何故にそこまでしているのかと聞いた時は、迷子になつてもすぐみつけれようにするためのマーキングらしいです。

と、道中いろいろと、そういう形ですごしながら過ぎていってました。結局、自分は戦闘に関して一切何もしなくても問題なさそうでした。

しばらくの間は養じわれる生活が続いたのですが”それはそれで、こう・・・どうなのか?”という、”自身の価値について”悩み、多少なりとも打破するために、役割として家事全般を行っていく形にしました。

ただ、その後にも

”これで冒険者と名乗っても良いのか?”

とか、

”男として、これでいいのか?”

という自尊心に対する自問自答をし続けていた時期もありましたが、エビさんに諭されて、今ではそういう役割で助けるといふ認識になっています。

そうそう、エビさんというのは、テールの魂に混まじり合あわされた存在の一つで、エビ

ル・ドラゴンさん（名前が無いとの事で勝手に付けさせてもらいました）とおっしやられる方でした。

最初、テールを寝かしつけていた時に、いきなり龍みたいな恰好に変わった時は驚きましたが……。

が、色々と説明を受けたら”ああ……テールつて、そういう……”と納得もしてしまいました。

他にも、呼称は勝手につけましたが

- ”グランデユーク・マフティマ”のグラさん
- ”スロンズ・イスラフ”のスロさん
- ”ロイヤル・タイガー”のロイさん
- ”エンペラー・バット”のエンさん
- ”バーテックス・スネーク”のバーテさん
- ”シュプリーム・ドラゴンフライ”のシューさん
- ”プリミティブ・シルウオーム”のハクさん

などなど、ここに挙げた他にもおられるようですが、いまだ目覚めていないとか何とかで、覚醒したら魂内会議で伝えておくとの事でした。

魂内会議つて、脳内会議みたいなものなのでしょうか？

ただ、バーテさんと、シユーさんと、ハクさんの時が一番危ない（バーテさんは気品  
的な、シユーさんは妖艶的な、ハクさんは雅的な姿と相まって）など思いました。

そんなこんなで、色々と物事が起きては過ぎ去り、半年？以上だと思えますが、すぎ  
さつていくと、いつの間にか自分たちのパーティは新進気鋭の「RANK:A」のチー  
ム（ただし、自分は荷物持ち扱いのヒモ扱い）という評価になっていたりしました。

それでも、元の世界に戻る為の方法を探す為に神様に会いに行くという旅は順調に進  
み続けてました。



そうして、今までの様に神様という存在がその方法を知っているだろうと、となりの大陸に存在する、この世界の一大宗教の総本山ともいえる巨大都市、聖都「アーバーム」という所に、やっと到着する事が出来ました。

とても、とても、長かったです。

ええ、ええ、それはそれはもう・・・

ここには、この世界を創ったという神様が祀られてるとか何とかで、何かしらの情報が得られればよいなと思います。

敬具

追伸

巨大な外壁に設けられている門を抜けて街に入った瞬間、  
今までの場違い感がすごかったです・・・

きつちりと整備された道路に、コンクリート壁やガラス窓の街並み  
無人の車輪のない自動車(?) が行きかい、バスの停車場(?) もあります  
そして、そこに並んでいる人々はどうみても今まで見てきた”ヒト” じゃなく  
昔風を現代風に置き換えた様なタコ型の宇宙人ばりの恰好したり、  
どこかの人を模した機械骨格のままに服を着ていたりする”ヒト” たちが、  
スマホ(?) 端末みたいなモノを器用に触りながら待っていたり・・・

、A、;) : S <sup>すこしふしぎ</sup> F な成分すら、走り過ぎて行ってね?

（、A、；）：何か、話が重い……重すぎるぞ……

ふと、庭先にしげる葉にいるカタツムリが、ゆつくりと移動している様に、時の流れもいつしよにゆつくりと過ぎ去っていく、そんな風に感じられる時分、いかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

機械の身体を持つ人は、キージン族という人たちでした。

同様に、よくある宇宙的なのは、イージン族という人たちでした。

とりあえず、種族名がすごく言葉として発生しづらいのは何とかならなかったのでしょうか。

そこはにおいておきまして、なんでも、キージン族は数千年の間も活動ができるため、

主に就労につき、イ・セージン族はその不思議エネルギーを感知しては、宗教的・政治的な部分へと、という形で収まっているそうです。

街並みの風景で見られたガラス張りや近代的な街並みに自動化云々も、不思議エネルギーを利用する機械の体の人の科学技術(？)が確立していて、普通に製造しては建設しているという。

S Fでもなんでもありませんでした。

ただ、必然として存在していただけでした。

門外に出にくいのは、宗教的かつ商業的からみがあるそうです。

この地は、人々を魅了しては集るに足る”世界の楽園”だよ。と

これらは大衆食堂で給仕をしていた、肝っ玉系おばちゃん風なイ・セージンの方から教わりました。

というか、イーセージ・ンって読んでるだけで、ぜったい異星人だと思ったりしますが、ここらでは普通に”聖人”みたいな感じで受け入れられているようです。

そうして、総本山ともいえる大聖堂に赴きましたが、詳しく教えを乞おうとしたら金を要求され、雑多人込みの中の聖道内を案内役がついてきては、順路の順番通りに施設の案内と宗教の教本的な説明で終わりました。

これ、観光案内以外の何物でもありませんよね？

ただ、その時に教わった叙事詩に、

大昔に空から箱舟がやってきて、この星に恵みをもたらした存在があった。それらは世界に新たな命を作っては、文明をはぐくませた。

その船が降り立った地が、この聖都「アーバム」であった。

その理由として、不思議エネルギーはこの周辺でのみでしか見られない  
そうして、人々はこの地に根を張り、恩恵を受けれる楽園を手に入れた

と、そんな説法を聞かされている間、自分としてはやっぱり、

” それ、箱舟移民系SFでは?”

” しかも、遺伝子操作とかやってそう?”

” 箱舟が宇宙船としたら、その不思議<sup>せいなる</sup>エネルギー<sup>ちから</sup>はその船から供給されてるだけとか  
?”

などなど、SF的な思考が脳裏によぎりました。

そうして、なんとなく、なんとなくなのですが、” もしかして、神様という存在がない世界なパターン?”という、悪い予想がふつふつと湧き上がってきました。

そうなる……少し、いえ、かなり期待していた分、残念な結果にしかならなかったかと、多きに落胆しながら、次の目的地について検討をしようと、二人と一緒に宿へ続

く帰路についていました。

そんなとき、気が付いたら周囲には鎧甲冑かつ神職的な服装をした方々数名に囲まれては”このまま、何事もなく一緒に来ていただきたい。危害を加える気は一切ない”と、連行される形で否応なしについていきました。

着いた先は、観光地となっていた大聖堂とは違う、どこから見ても中規模でありながらも、傍目はみずぼらしい風な教会？とでもいったところでした。

ただ、外見はみずぼらしくも内部に入ると、どことなく綺麗になっており、一見すれば観光地になっていた大聖堂の派手やかさとは違う意味で静かに佇んでいて、一言で言うなら壯嚴そうげんという感じでした。

その中では一人の神官服を着た、目の部分や至る所が傷つき欠けているキルジ・ンの……（たぶん女性）方が、此方にゆっくりとおぼつか無い足取りで近づき、レイ

とテール、そして自分を見たかと思えば

”ヨ言ゲンに在りし、解ホウのシシャよ、よくぞオいでクダさいました”

”ワレ我一派、この時を幾セン年、幾マン年、待ちツツけてオりました……”

と、か細くもシツカリと芯のある声を発しながら、自分に対して膝を付いては頭を下げてこられました。

敬具

追伸：

キージンの方（「大聖官」といわれる役職の方）は、裏方の纏め役だそうです。

何でも”キージン”は「働力」として、”イーセージン”も「導者」ROLEしての役割ROLEを持たさらされ

この地を中心にししか活動できない様に、箱船が「そう決めた規則ルール」だと

二種族にとって、自由があるようで無い、無意識下に存在する規則ルールが絶対、



それが、この呪われた地「アーバーン」である。と

その規則を”破壊できる””役割を持つモノ”が現れると、

箱船に隠されてあつたレコードから、”役割を持つモノ”の来訪を待ち続けたと、

その”役割を持つモノ”とは、”異次元の神霊”と”命器の獣姫”を連れた”破壊の異邦人”であると……

（A、J）：何か、話が重い……重すぎるぞ……

( , A , )  
 ……

強い日差しが、明と暗をしつかりと境界線を引いては、動物たちですら陰へと隠れる中、一部の生命は短命の時期に役割をなそうとしている時分、いかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

大聖官と言われる方に連れられ、箱船といわれる場所へと案内されては、その箱船の中のの聖域と称されている場所へと赴きました。

“箱船”と言われましたが、まず、その形状を見たときに”ラ〇ユタは本当にあつたんだ！”と言えそうな感じで、静止衛星的に空に浮かんでいる状態でした。

異なる点といえば、古い建造物や巨大な樹とかはありませんでしたが、代わりに聳そびえ

立っていたのが、脈打っている生物の血管の様なものが、ツタの様に絡み合っているというか……

それらが歩く道や壁などにも縦横無人に張り巡らされ、微かに動いて……脈打っている状態でした。

正直に言えば「キモチわるい」の一言です。

しかも、湯気みたいなものが脈打つ管から湧きあがり、なおかつ粘性のありそうな液体がしたたり落ちていたり、少々生臭いという点が、さらに「グロさ」を強調してきます。

不思議……じゃなく、面白がっているテールは、その管のひとつを突ついては、反応をしている状態を楽しんでいる様でした。

よくある神聖的な場所、そんな風に思っていました。ここまで想像と違いすぎる内

容に、悪魔的というか邪悪的というか、BAID〇的というか……そんな印象しか思い浮かびませんでした。

そうして、肉壁ともいえる通路を通りすぎた先にすすむと、少し開けた場所へと進むと、その先の肉壁に埋まっている何かがありました。

どうやら、ここが聖域、だそうです。

そして、先ほどから存在の主張をしている埋まっている何か

巨大なサナギ（甲虫系？）の様な恰好をしている、昆虫のような物体というのが一番しつくりくると思います。

折りたたまれた8本の脚？……どれも手があるから腕？に特徴的な腹の部分など、まさに凶鑑にでも出てくる標本、そんな感じでした。

そして、そのサナギに対して、ここまでくる道中でグロさを醸し出していた管が集約しているともいえるのでしょうか。

周囲のシチュエーションと、この巨大な昆虫オブジェから、どこからどうみても邪神的な何かとしかいえませんでした。

ただ、レイさんが言うには、自分と同類の様な存在とは言っていましたが……

そもそも、連れてこられたのはいいとして、自分がどうすればよいのかが皆目見当がつきません。

なにしろ、自分の出来る事といったら、粉微塵にする事しかないわけですし……

大聖官の方には聞いてみても、箱船の聖域で起きるといふ事が記録レコードに記されていることで、細かいことは何も……という事だそうです。

とりあえず、あのサナギを粉微塵にすればよいのでしようか？と、そう思ってみても、嫌な予感みたいなものは一切感じません。

他には……と、接続されている血管？を粉微塵にする事を想定しましたが、嫌な予感をひしひしと感じてしまいます。

ここまであからさまな“嫌な予感”というのは、何かしらあるのでしょうか？と、そんな感じで、色々と想定しては感じてみると、結局は、最初のサナギを粉微塵にする方向が、嫌な予感というものを一切感じません。

ここまで露骨な差を感じを受けとれば、さすがの自分でもその直感を信じるのが正しいんだらうなど、そう思う事にしました。

ただ、少し高いところにあるので、そこに行くまでが大変めんどくせでしたが……

そうして、粘着力がありそうな粘液まみれになりながらも、なんとかサナギの前に到着し、サナギを攻撃するという認識で殴りつけてみました。

まあ、何時ものように接触するとハジケトビましたが……

ところが、いつもみたいな粉微塵にはなりますが、すべてがすべてとはいきませんのでした。

なにしろ、はじけ飛んだあとの残った血管らしき管から大量にあふれ出る紫色の液体によって、自身を押し流しては、先ほどの祭壇の場所へと流されてしまいました。

そうして、広間の方へと流され堕ちたれば、正直、匂いも物凄く生臭くて少し胃の中のモノをリバーシしかけたほどに、ヤバかったです。

ただ、そのあとに駆け足で近寄って来たテールが急に立ち止まり、”パパ、くさい……”という言葉をなげかけられ、後ずsりをされたのが、さらに精神的に追い打ちをされた感じでキツカッタです。

(これが、思春期の娘を持った父親の心境というものでしょうか……)

とりあえず、自分の直感を信じたわけなのですが、先ほど粉碎した場所を見上げると、その場所には黒っぽい楕円のナニかが、そこに浮かんでいました。

なんぞアレ？と思っていたのも束の間、その部分から8本腕が生える様子が現れたかと思えば、黒い甲虫の様な胴体に、ファンタジー的な竜の様な髭や牙が見える顎からは涎を垂れこぼし、その頭部にある一对の眼は赤い目玉をしていました。

そんな、キメラの様な何かが、広間に着地したかと思えば、此方を見据えている様でした。

ただ、不思議な事に、”危険”という感じは一切なく、相手側からは何かしら”見えているぞ”とでもいう風な、そんな視線をしばらく受け続けました。

そして、突然大きく口を開けたかと思えば、自分の目の前の空中で、かみちぎる様なしぐさをしては咀嚼し、そしてそれを二度三度くりかえしては満足している風でした。



その何かが終わったような雰囲気のもと、最後に大聖官と視線を交わし、”これで大丈夫だろう”といった雰囲気を醸し出しては、ソレは一对の羽を羽搏はばたかせ、宙へとゆつくりと浮いたかと思えば、次の瞬間には一気に宙空間へと飛び去って行きました。

いったいアレは何だったのでしょうか……

そんな風に不思議に思っていたら、突然大きな揺れを感じました。

周りをみわたせば、サナギのいた管の集まりだった部分が崩れ去り、そこを起点に何故か崩壊する様に崩れ落ちていき始めていました。

”主殿！はやくこの場から逃げましょう！””パパ！早く逃げよ！！”と、レイさんとテールにせかさされていたのですが、そんな状況であっても、何故か危機感というか嫌な予感的なモノを感じずにいます。

なにしろ、来た道へ逃げようとする方向の方が、マズいという認識に陥っていたから  
です。

逆に、大聖官の方へ近づけという恰好で、感覚的な何かは教えてくれます。  
その直感に従い、大聖官へと近づくと

”異邦人”さま、ありがとうございます。これでワタシの役割は成せれます”

そう言葉が聞こえると、大聖官はおもむろに自身の腕を胸へと突き刺し、球体の何か  
を自分へと無理やり渡しては、床へと崩れ落ちました。

えっ？という疑問の言葉と共に、とうとう自分の足場すら崩れ去り、大聖官もその崩  
れ去る中へと消え去るなか、手渡された球体が紫色に強く光り輝いたかと思えば、自分  
たちを包み込み……

敬具

追伸

見覚えのある場所

見覚えのある夕暮れ時

見覚えのある部屋

覚えのあるひとりきりの空間

旅の間、いつも傍にいた二つの存在を呼んでみるも、返事はなく、

ただ、汚れて嫌な臭いをする貫頭衣に、手には光を失った球体が一つ

そういえば、大聖官の名は「フィックス」と言っていた事を思い出し……

（ A ） ……

EP5 : アヤカシふあんたじい

( ' A ` ; ) : 今度は、和風(そっち)かあ・・・

前略

タカシです。

あれから、幾月が過ぎ去りました。

自身の部屋に帰って来た当初は、夢か幻なのかと考えてはいましたが、握られていた薄紫色の透明な球体は実在した物であり、それを手にするたびに実際に起きた事なのだと実感させられました。

なお、その薄紫の玉は、今では液晶テレビのテレビ台の隅に乗っかってるインテリアになっています。

それでも、今までの事から少しの期待を込めてIDK賃貸部屋をくまなく探すも、二人が現れることもなく、それまでの一人暮らしが続く状況が続きました。

ときおり、仕事から帰って玄関の扉を開けリビングに出た先には、テレビに見入っては一緒に体操している存在<sup>デル</sup>や、部屋の隅のテーブルにあるPCに、身体の一部を埋め込んでは何かしら呟いている存在<sup>レイ</sup>がいるのでは？と、思い出されます。

不思議な体験をし始めた当初は、「なんで自分がああいう事に遭遇するのか……」と、愚痴っていました。が、何度も経験していくと「慣れ」もありましたが、同時に、今さらながらに、少し寂しさを感じてしまっていました。

思い出されるのは、最後になったあの当時の旅路で、苦労しながらも何気に充実していた日々を過ごしている自分がいた事を思い出させては、「二人がいたからこそ、あれはあれで悪くはなかったな」と……

ですが、あれ以降、そういった事が起きる事は一切無くなりました。

そうそう、無くなったといえ、粉微塵にするチート能力ですが、どうやらこれも無くなった様です。

部屋で見かける黒く素早く動く俗称名「油虫」を、フリーペーパーを丸めたもので叩き潰しても、煙が上がる事もなく、普通に叩き潰せた時には感動してしまいました。

ただ、少なからず残念だなと思つた事は否定しません。

なにしろ、燃えるゴミが嵩張らなくする事ができましたので。

なお、燃えないゴミは、姿恰好を残しておかなければならない事となっており、これは自治体のルールなので、どうしようもありませんでしたが……

当時の旅路の時の汚れ物の処理に重宝し、生活の一部として有効活用できたのは、否めない事実でしたし。

他には……

あれから「嫌な予感」というのが、かなりの中する様になりました。

前までも、何かしらそういう予感というのはありましたが、それが強くなっている印

象です。

つい最近でも、急いでいるあまりに点滅信号にもかかわらず、横断歩道を渡ろうと思つた時、チリチリとくる強い「嫌な予感」を感じては、横断歩道を渡る事を止めた瞬間、ものすごい勢いで大型車が目の前を通過していったりしました。

他にも、ふと嫌な感じがして立ち止まってしまった時は、目の前に落下してきたスマートフォンに当たりそうになったり、飲食店に入ろうと思つた時、「嫌な予感」で辞めたと思えば、後日、食中毒事件が起きてたりと、いろいろと遭遇していました。

せめて、良い予感というのを感じたいものですが、ここまで色々と体験すると、これも、厄病神に憑りつかれた影響なのか？と考えてしまいます。

そろそろ、お盆休みに入ります。

今までは、帰る余裕がなく帰郷していませんでしたが、ようやく落ち着いてきたので、久しぶりに実家に顔を出そうかと思えます。

追伸：

久しぶりに実家へと帰る道中、寂れた神社が目につきました。

子供の頃に、今では名前も忘れた子供と遊んでたのを思い出しては、

懐かしくも感じながら、”神頼みと厄払いを祈願しておくか”と立ち寄り、

賽銭を入れ、鈴を鳴らして願うのは、

『厄払いと、あの二人が今、元氣にしていますように・・・』と。

そんな、お祈りを済ませ、来た道に戻ろうと振り返ると、

何もなかったはずの参道に、何かが真ん中に陣取っているかのようになっています。

それは人の様な・・・どこかで見たような・・・

ふくらんだお腹、やせ細った手足：見るからに：餓鬼といったところで

( ' A ` ; ) : 今度は、和風(そっち)かあ・・・



、A、；：：というか、一体（こ）ど（こ）よ……

### 前略

タカシです。

参道に表れた存在（餓鬼？）に対して、チリチリとした“危険信号”を感じ取ったために、急遽、大変失礼ではありますが、本堂の中に隠れる行動に出ていました。

まずは、扉に鍵がかかってなくて助かりました。

そうして、隠れた場所から覗き見るも、参道に居座っている存在は、幻影などではなくその場に確実に存在している様でした。

ただ、こちらに気づいてはいないみたいで、何かしら探しているのか、あたりを見回しては土を掘り返し、掘り返した後は再びあたりを見渡すという行動にでている様でした。

さて、どうしたものでしょうか。

嫌な予感に伴い、本堂に隠れるまでは良かったのですが、この本堂から身動きがとれなさそうです。

見える範囲には、寂れた社務所がありますが、物置き小屋となっており、祭事の際にしか開かない、田舎の神社です。

さらに、人なんてめつたに来ることは無かったと記憶しています。

もし、人が来たとしても、ああいう存在をどうにか出来る方法があるのかすらわかりません。

例の粉<sup>チ</sup>微<sup>ト</sup>塵も、使えな無くなった自分としては、かかってくる火の粉を払う能力が確実に無いと断言できません。

救いがあるとすれば、この本堂の中だけが嫌な予感が皆無とっていいほどであり、とても暖かく、そしてなつかしく……心が落ち着けて冷静に思える事ができるといった

点でしょうか。

しかし、このままこの場所に居るわけにはどうかして、この場所を離れたいのですが、その行為すら危険であると”嫌な予感”が訴えてきます。

さて、どうしたものか……

と、餓鬼の行動を視認しながら悩んでいると、”お困りかの?”という、声が背後から聞こえてきました。

声の方へと振り向き直すも誰もいませんでしたが、祭壇に祭られている鏡が光っている様にも見えませんでした。

”なんじゃ、貴様であるか、ならば掬い取ってやろうぞ”

そんな声が聞こえたかと思えば、祭られてある鏡を中心に世界が一瞬グニヤリと回ったかと思えば、流れる様に視界にうつつていったのは、突如浮いた状態で、紅色の

鳥居をくぐっていく感覚のまま、どこかに移動している様な映像が流れていきます。

そうして、どこかで見た本堂の扉を開けて中に入っていったと思えば、そのままそこで記憶がなくなったのだけは覚えています。

草々

追伸

気が付いた時は、良い香りがする黒髪の巫女装束、巫女髪型姿の女性の膝枕、そして優しく頭をなでられているという状態でした。

”な、な、な……イマセン！スイマセン！”と咄嗟に離れると、

”気にするでない。我と貴様との間であろう？”と、口元を隠しながら、

丁寧な笑いで返してこられ、

”今しばらくは現是げんぜには戻れん。昔の様に常世こちらにしばらく泊まって行け”と、

そう言われては、凜とした姿で案内された場所は、”どこか見覚えのある場所”で

……

、  
A、  
;) : :  
というか、  
一体ここどこよ……  
……

( ( A ) ) : (筋肉痛で悶えている)

前略

タカシです。

あれから、絶賛(?) 軟禁状態に陥っています。

与えられた場所が、古き良き時代の日本家屋でいうところの、離れにあたりそうな庵室あんしつみたいな場所でした。

初日に案内された以降、凜とした巫女装束の方からは、ある程度は自由にしても良いらしいとのことでしたが、安易に立ち入っては危ない場所があるらしく、必ず付き添いとなるモノと一緒に行動する様にと厳命されました。

その説明を聞いた後には、その後ろに待機していた付き添いと思しき方々に会釈され

たのですが、顔の部分に文字らしき物が書かれてある布を被っているために、表情などがよくわかりません。

なぜ、あのような恰好なのかと聞くと、曰く、「常世では顔が存在させぬからの」との事でした。

これ以上、深く聞かない方がよいという感覚がしたので、それ以上は聞かない事になりました。

そうして、軟禁生活がスタートしました。

いただく食事も和食善という感じのありふれた物に思えたのですが、豪勢というよりは質素な見栄えにもかかわらず、簡素に見えつつも、かなり手の込んだ品物ばかりという代物で、現代社会においては、健康的な食事といえるものだと思います。

食事がまともに行けるといふ点では、あの時よりだいぶマシと感じてしまいます。

そう、地べたに広がったモノをすするとか、パン切れと味のしないスープとかよりは

……

他には、スマホの電波がずっと圏外なためか、通信が必要なアプリがまともに動作しません。

が、それでも過去に経験した軟禁状態よりもかなり良い待遇な軟禁という形です。

ただ、本堂に入る事はできませんが、それ以外のほとんど、たとえば庭に散策に出るなど、そういう所レベルは歩き回れる形です。

空を見れば、きちんと青空と夕焼けも確認できましたし、一日の終わりには、あの凜とした巫女装束の方が現れては、その日の事を聞き出してくるぐらいです。

しいて、ちよつとした事と思う点を上げるなら、後ろには必ずあの一文字かかれた布をかぶった人達がいる事でしょうか。

それも、トイレ？ 廁？ にも入ってこようとするのは、ちよつとやめて欲しかったです  
が……

正直、本当に軟禁(？)な気がしないでもありませんでしたが、あの白い空間や狭い石積み部屋を思い返せば、まだましかもしれません。



これ、俗にいう”世捨て人”（僧侶？）という状況なのではないでしょうか？

そもそも、あれからどれぐらい経つたのでしょうか？

スマホの時計も狂ってるようにというか、止まったりしますし、気が付いたら、秒だけが動いてるような？なレベルです。

とりあえず、二週間は過ぎ去ったと、外が明るくなった回数で日数を数えていたのですが、それ以上は感覚が分からなくなってきました。

そして、二週間といえば、盆休みはどうに過ぎ去ってしまったているはずで、このままでは無断欠勤扱いになってしまうと、連絡をとろうとしてみても圏外表示のまま連絡がとれそうにありません。

正直、そちらの方が怖いです。

付き添いの方に連絡したいなりの話をつけてみるも、”確認を取ります”と言われている、その翌日に”御屋形様からは、もうしばらくお待ちくださるように、と”何度も言われる始末でした。

また、その後日に会えた本人から”その点に関しては安心しろ、悪い様には、絶対にさせないからの、今しばらくは耐えてくれ”と。

説明を聞いた時にも、確かにそういった嫌な予感というのを感じはしないので、手回してくれていて、大丈夫なのだろうと思っておきました。

そうして、何事もなく、だらけ切った日々(?)が過ぎていきました・・・

草々

追伸：

やはり、だらけ切っているのは不味いなあと思いなおしては、身体を動かそうと敷地内にあつた道場をお借りし、子供の頃行っていた剣道の練習を思い出しながら素振りなどを行ってました。

いつのまにか、凜とした方も”その手があつたか……”とつぶやきながら、稽古をつける称しては駆け付けられ、軽く動かすつもりだったのが、何故か段々と内容が重

くなっていきました。

なお、翌々日には、寢室からまともに動けなくなりました。

背中がイタイ…足がイタイ…腰がイタイ…身体中イタイ…イタイ…イタイ…

( A ) ( ) : (筋肉痛で悶えている)

( ' A ` ; ) : それって、クーリング・オフきますか？

前略

タカシです。

二日後に訪れた筋肉痛という敵に辛勝(?)し終えた時、凜とした人からお呼びがかかりました。

そうして、どこか神聖的ともいえる荘厳な和室へと案内されては向かい合っていたのですが、その間にある机の上には束ねられた紙の束をこちら渡して説明されてこられました。

なんでも、書類に本人の直筆が必要なんだそうです。

あと、ハンコまたは拇印(可)も必要だそうです。

よくわかりませんが、部外者を宿泊させているという事で、誓約書的なものが急遽必要なのだそうです。

ですが、それらを凜とした方が代筆で行っていたら書簡係に駄目出しをされたのとこのことです。

”堅物な奴だが有能での……一筆いれるだけにかまわぬから、したためてくれればそれでよい”と手渡されました。

誓約書なので自信の宣言的なものという事になる様ですが、渡された書面を実際に見せてもらいましたが……

文字が崩れすぎて何て書いてあるのか、まったくよくわかりません。

”文字が汚い”というわけでもなく、かなり綺麗で尚且つ達筆で書かれているというのは理解できるのですが、こう一部の”ひらがな”や”漢字”ぐらいしか判別できません。

こういうのはたしか、行書よりももつと崩した文字とかいうのがあったと思いますが……そういったものなのでしょうか？

それにしても、縦書きの簡条書きとなっている代物というのは分かりませんが、内容を

知らないままというのは、気持ちの良いものではありません。

申し訳なく思いながらも、箇条書きの部分を一つ一つ説明していただきました。

結果、要約すると施設に損壊などを起こさないや、迷惑行為を行わない、使用したい施設があれば先立って申請をする、業務の妨げないこと、用立てが起きた時には協力するなど、当たり障りのない内容の事が羅列されました。

なんとというか、社会的に見てもいたって普通の事が記載されていることがわかりました。

この内容に照らし合わす形で、今まで自分が行ってきたことを振り返ってみるも、一応はこの箇条書きの内容にはなっていたことで、問題が起きていないことも確認がとれました。

そうして、各書面の最後のところに、凜とした方と自分の名が必要とのことで、それぞれの書面に名前を書いては、拇印をと思ったとき、凜とした方がいきなり指を切つては押し付けていました。

朱肉はないのでしょうか？

血判なのはどうかと思いますが……

そのまま、流されるままに刃物で傷をつけた指を使い、説明されるがままに、その隣にと書類に押ししていきます。

モノによっては、割り印の様にと紙をズラシかさねた後に、凜とした方のさらに上へと重ねる様にという形でいろいろと押ししていきました。

そういえば、凜とした人の名前は分ならず仕舞でした。

なにせ、これも立派に綺麗な崩れた文字になっていて、読めませんでした。

最後の一枚が終わったところで”とりあえずは之で終わりとなる。貴様としては不本意であろうが……、我がおるから悪くせぬからな。一生安心しろ。”と、小さく微笑みながらおっしゃられては、書類をもつてイソイソという感じでその場を去られていきました。

ただ、「扉から出る際に”今後ともよろしく頼むぞ”という感じの、何かしらの意味があるような言葉をこぼしていた様な気がしました。

## 追伸

再び道場で身体を動かしていると、お手伝いの方々が現れては、高貴な方々が来られる御用立てがあるので、協力してほしいと、そういわれては、書面の事を思い出し、協力することになっていたため、わかりました。と、しばらく、離れでおとなしくしてました。

そうして、夕刻？になる頃合いに、凜とした方が現れました。

ただ、何故か今までとは違う、白を強く基調とした巫女服姿で、尚且つ長い直刀？の様な物を携えていました。

そうして”今<sup>こんぜ</sup>是に渡る許可がおりたぞ。今<sup>こんぜ</sup>度は我も一緒だ。うれしかろう？”と、満面の笑みを醸し出しては、とても嬉しそうにし、そして、自分の腕を引っ張り上げては、最初にこの場所に来た部屋から、同じ様にぐにやりと視界がゆがんだかと思えば、見覚えのある、あの社の中に現れました。

ただ、その移動中にすれ違った給仕の方々から

”かしよくの契<sup>ちぎり</sup>り、ほぎごと申し上げます”



という、まるで祝う様な言葉がかけられ続けていた様な……  
ちぎりとかだと、マサカ、知らないうちに契約とか？  
でも、ええ……？

（A、シ）：それって、ク、クーリング・オフきますか？

( ' A ` ) : また疫病神 ( アイツ ) 案件か……

前略

タカシです。

” 渡るぞ ” と言われるがまま、連れられてきた所といえば、逃げ込んだ本堂の中という場所でした。

そして、いままでの様な嫌な予感という感覚よりもさらに酷い、鋭い寒気みたいなものが、扉の向こう側から一方的に漂っているのを感じていました。

他に変わった事は？ と思いつつ、建屋の中の周囲を見渡しても、これと言って変わったものは……ありません。

大きな違いがあるとするとするならば、自分の手の内に刀剣の類でいうところの、柄みたいな物が握られているぐらいで、これはこれでおいておき、他には？ と周りを観察している、と、

”早う我を手に取りぬか、穢れがこれ以上広がる前に、比良坂へ還せねばならぬのだからな”

唐突に、あの凜とした人の声が聞こえてきました。

また、その声が聞こえるたびにその柄が震えている様な……

まさかと思つては、その柄をじっくりと観ていると、今度ははつきりとした声が聞こえてきました。

”何の為に稽古をつけたと思うておる。この為の時ぞ”

と言われたとたん、急にその柄に引つ張られるかのように、鋭い寒気がする方向へと向かわせる形になったかと思えば、いきなり外へと放りだされてしまいました。

かなり派手な音がしたのか、寒気がした方、つまりは見た目がどうみても餓鬼な存在がこちらに気づいたのか、変な奇声をあげながら走つてきました。ので、

ダツシユで逃げました。

境内にある社回りを一周する、という恰好でしょうか？とにかく走ってその場から逃げ格好にしました。

そうして、餓鬼？らしき物と、社を何周かしていると再び脳内に声が響いてきます。

”逃げるな！この戯たわけけが！”

”我が一緒だと言っておろうが！！”

”何のための稽古だったか！”

と、そうは言われませんが、刃も無く柄つかだけの代物でどうしろというのでしょうか？まさか、某スター星ウォーズの戦争ウオーズみたいな、スイツチ的な物が無いので、例えば、念じたりすれば光る刃が出てきたりとかするわけでも……

薄緑色した光の刃が出ました。

土器とかの時代っぽい長剣みたいな刀身が薄緑色に発光しながら。

しかも、効果音スターが星ウォーズの戦争と同じ”ヴォン”という感じで。

” 出ちやったよ…… ” な状態になりながらも、とりあえず見つかりそうであったので、遁走とんそうを続けていると、

” 貴様、思つた通り神通力チカラを發揮できるではないか！なぜそれで逃げる！！”

と、さらに脳内に響いてくる声が、より一層ヒートアップしてきます。

そういわれても、相手は訳のわからない存在です。

今まで経験したファンタジー世界の中でも経験したことのない、かなり異色な部類に区分けできます。

そもそも、現実的な世界の中で存在している事自体が、絵空事の様にはか思えません。それに、これは和製ファンタジー的なものごしか思えませんし……

あれです、女神様が転生するようなモノでもなかろうかと。

そんな考えに至りながらも、その間にも一方的に頭の中に鳴り響いたかと思えば、

” もうよい！卸す！貴様の身体を貸りるぞ！！我があ奴を” 還して ” やる ”

と言われた途端、身体から一切の自由が無くなり、餓鬼みたいな物と対峙してしまい

ました。

視界ではつきり物をとらえているという状況で、身体が自分の意思で動かせれないというのは、かなり怖い体験をしていたのではと思います。

迫りくる餓鬼(?) に対して刀を構え、相手の一撃を横にギリで避けては、みごとな右切り上げを一閃……

ただ、その瞬間を無理やり見せつけられている分には、いささか心的なダメージが蓄積されるという問題があると思いました。

切られた餓鬼? みたいな存在といえ、黒い粒子? 粉塵? が霧散するかのように消えていきました。

” 終わったぞ? 身体を還すが……うむ、大事な大事な身体には、傷一つつけておらんからな。安心するとよいぞ”

と、何やら嬉しそうにしている感じの聲が聞こえてきます。

そうして、後は、先ほどの餓鬼? らしきモノが居たあたりに出向くと、何か、こう、ター

ル？の様な黒い粘液みたいなものが地面に……

” 剣をその穢氣に突き刺せい。それで仕舞じや”

言われるがまま、たぶん、剣？をその黒いタールみたいなのに突き刺すと、黒い煙？となつて消えていきました。

そういえば、嫌な気配も消え去り、紫色っぽい空もいつの間にか青色の空へと変わつていました。

そうして、とりあえずの大事は終わったとの説明をうけました。

結局、何がどうなつたか？と説明をうけてみると、比良坂の餓鬼が現是へと堕ちてき、現是から本来いるべき場所へと還すという形にしたそうです。

そのために、切り付けて真つ二つにする行為が”黄泉へと還す”事に繋がるといわれましたが、何だか納得はいかないような、いくような……

ついでに、あの凜とした人の名前を聞き忘れ続けていたので、何気に色々聞いてみました。

襲名と契りが成され、前職を辞しては、今は第参百伍十八代目のイツノオノハバリ(襲名)さんとの事で、” 貴様だけならば、気安く「ハバリ」と呼べばよいぞ” だそうです。旧名は、襲名が決まった時点で、無くなってしまったとの事で、” 昔の様に、そちらでは呼ばせれなくて、すまない……” とも言われましたが、旧名を思い出せないのも……

ただ、そのあとに続いた言葉で、そんな思考がすべて吹き飛びました。

” これからも、この様な事が起き続けると思うが、” 還す” 事をせねばならぬからな。今後ともよろしく頼むぞ。なに、儂が” りよはん” として憑いておるからの、一生安心せい。”

……えっ？



コレって、続くの？

追伸

ハバリさんから（「さ、さつさと気安く呼ばんか」と何故か怒鳴られる）、さらに聞いた話なんです、何でも、昨今、異界への門が彼方あちら此方こちらに発生し、有象無象の存在が流れ出たり、来られなくなったりする事があるそうです。

その影響で、こちら側の元々の界門が狂ってしまうとか何とかで、何とかしようとする一環として、ハバリさんと自分がその一つに選ばれたと。

そして、何で自分が？という、その特異点のひとつ”という事だそうで、何かしらの影響が発生するからと、監視も含めて同伴されるとか何とか、そもそも、特異点と言われれば、疫病神思い当たる節がありすぎて……

（、A、）：また疫病神案件か……

EP 6. 1 : 秘・日常ふあんたじい (中)

( , A , ) : 終わったんじゃないの?続けるの?本当に?  
?

人工的かつ自然を感じられない建造物が立ち並ぶ都会の中で、その建物の屋上にある  
ビアホールにて、納涼会にて暑さから解放されるひと時を楽しんでおられるでしょう  
か。

タカシです。

『人間は、何事にも慣れる存在だ』

この言葉を口にした人は、一体どういう心境だったのでしょうか?

一人暮らしの中、平日は会社勤めを行い、その合間に妖怪？もどきなどを相手する日々を送るといふ生活が続き、サラリーマンとして疲れた体に鞭打つては、言われるがまま、操られるままに動かされては対応させられていました。

初めの頃は、慣れないために身体が筋肉痛という症状を、二日後ぐらいに訴えてきては、休息を懇願していましたが、そのすべてを無視されては対応をしていくという、そんな生活が続きました。

が、それらも、ひと月も続くと『人間は、何事にも慣れる存在だ』という言葉通りに、慣れてしまっている自分がいる事に、何とも言えなくなりました。

そうして、半年が過去すぎさつた時には、その手の業界というのが存在しているみたいで、その業界の人(?)の伝手もでき始めました。

(当初は、本当にそういう存在があるんだ……と、嘘だろ?どこかの新興宗教か何かだろ?と訝しんでいましたが、某名刺を見せられて、ええ……と思いましたが。)

世の中、本当にそういう手の人達がいるとは知りませんでした。疫ク病ソ神ソがいるとい

う存在証明となる「自分自身」という存在ではないか?と気づいてしまったため、そういう世界?業界?があっても何ら不思議じゃないな……と、妙に納得した自分もいました。

そして、その業界の人から接触を受けた時、衝撃的な言葉を投げかけられたのは今でも覚えています。

”新進気鋭の怪異掃除屋『滅剣のタカシ』”

本当にしつかりと思いい出せます。

インパクトがととても強すぎます。

なにしろ、大の大人が素面で、恥ずかしげもなくそう言ってきたのですから。

この……何でしょうか?

中学生が授業時間という空間から逃避するために、即興で脳内の設定で作られたもの、とでもいうのでしょうか……

その時に、正直に思ったことを吐露するならば「穴が有つたら入りたい」です。ほかにも言葉があるとすれば「シニタイ……」「ヒトオモイニ、コロシテクレ」でしょうか。

ちなみに、ハバリさんからは、「神刀ではないのか?」「この“ハバリ”の名が無いではないか!」と、文句?注文?を自分に言ってきた。

正直、”知らんがな……”と思いました。

そうして、伝手というか、知り合いになったとでもいうか、知り合い扱いにされたというか、そういう方から連絡が入りました。

大きな怪異が発生しそうで、力を借りたいと。

その言葉を聞いた途端、嫌な予感しませんでした……。

追伸:

最近、ハバリさんが名乗りを上げると五月蠅いです。

身体乗っ取られたら「神刀ハバリ参る」とか言ってます。

そんな時に限って回りに聞いてそうな人いなかったりしますが、  
本人は、それでいいのでしょうか?

( ` A ` ) : 終わったんじゃないの?続けるの?本当に?

、A、；)：まさか、そんなコト、アルハズハ：

熱い風がいつからか涼しく、そして冷たくなつては、衣替えをしなくてはと思え始める時分、いかがお過ごしでしょうか。

タカシです。

「ただいまー!!。ハパー!!」

「すみません主殿あおじ、時間がかかつてしまいました」

今現在、唐突に表れた二つの存在に抱き着かれていました。

ひとつは、かなり成長している恰好で、今までの魔物成分がどこいったのか、どこをどうみても完全な人になっており、どことなく子供っぽさの面影が少し残ったまま、正

面から抱き着かれては、自分の胸あたりにつよく頭をこすりつけています。

そして、もう一つの存在はといえば、姿恰好はあまり変わらない物の、質感というのがつきりと感じられ……なにしろ、かなりのポリユーマーな部位が背中に接触させてきては、自分の首元に顔を埋める恰好で静かに抱き着かれました。

そんな中、『なんじやこ奴ら……貴様との縁えんじが見え……だが残念じゃの？儂おんが紡いでおる』という声が聞こえてきましたが、そこは聞かなかったことにしておきます。

それよりも、先ほどから自分に対して送られる、回りの視線の方が痛いのですが……

さて、こうなった状況を思い返してみます。

……

……

……



まず、業界人（？）からの話を聞いた際に、とてつもなく嫌な感じをヒシヒシと感じていたのですが、ハバリさんから必ず受ける様にと指示を受け、しぶしぶと受ける形となり、そのまま何事もなく当日となりました。

当初の予定で、多数の同業の業界人（？）が集まっては、目的地となる”とある山の頂上”を目指して、周囲から登っていくという山狩りの方法で対応していくという話になりました。

自分の担当はその一つに割り当てられ、また、自分と共に行動する形で同門らしき宗派の人達が二人ほど付き添う形で、自分を含めて合計三人がその一区画の担当となりました。

そうして、時間になつては山頂に向かつて上り続け、その道中に、どうみても角が付いている赤い肌や青い肌、たまにオレンジ色風な肌をしている和製のモノノケたちが、まるで我を忘れたかのように襲つてきては、それらを駆逐しながら進みつづけては、山のいただきに到着しました。

山の頂きに到着したのは一番最後だったと覚えています。

他の人たちからの報告で「一番探していた対象が、まったく見つからない」という事で、リーダー格の人がこの場所におびき寄せるといふ話になり、何かしらの儀式が始まりました。

それを待ちぼうけをする形で眺めていたら、ハバリさんいわ曰く、《人為的に異界という現象(?)を起こしている。気を付けろ。》と、

言われた矢先、そのリーダー格と数名を残してその異界(?)に飲み込まれ、その異界の中に現れた何とも言えない、精神面がガリガリ減っていくようなグロイ存在がいました。

その存在はといえば、業界人(?)の人たちを、一人、また一人と取り込んでいくような形で飲み込んでいき、こちらも勢いに任されて飲み込まれ……たかと思えば、ハバリさんの機転により、球状の見えない壁になんとか守られて……《安心せい。護ると言うたであろう?》という事でした。

そして、ハバリさんは、この存在を倒すには「体内にある真なる心核となるモノ」を破壊する必要があるとか何とか……と、告げてこられました。

ここまで来たたら嫌な予感がする方向に突き進むのが正しいんだろな?と思いがながら突き進み、それらしい球状の物が付着している空間に到着した際、あれじゃないかな?とハバリさんに伝えると”さすがじゃの。さて、ここからは、私の出番かの?”という事でバトンタッチし、あっけなく一刀両断する事に成功しました。

が、こんどは切り開いたところから、大量の黒い色の水波が洪水のごとくに流れ出し、その流れに流されては、異界の外へと放り出されていました。

周囲を見ると、先ほど取り込まれていた人達も、何とか脱出できたかと思えば、いきなりリーダー格の人から攻撃をうけ、罅迫り合い状態の時に何か”邪魔をするな””二エ”がどうかこうとか言われ続けていましたが、急にリーダー格の人に、先ほどのその切り裂いたさいに現れた黒い水?みたいなのが纏わりついては姿がキモチ悪い恰好に変貌していききました。

その存在に対してハバリさんから”堕ちた畜生と同等で、救いようが無い存在じゃ

な。比良坂にすら逝けぬ存在になりはてておる、死した神といったところじゃろうな”との事で、”切り伏せなければならぬ存在”という事でした。

ですが、ハバリさんはいえ、さきほど自分を守りながら核を壊す為に色々力を使い果たしたがために消耗しきっており、対応するには厳しいと言われたため、一旦、身体を自由を返してもらっては、こんな状況の中でも”何故か嫌な感じが一切しない方向に”身体を動かし続けては、逃げの一手の行動をとっていききました。

ただ、そうしていたにも関わらず、どこでどうやったのかわからないのですが、なぜか知らないうちに相手の胴体(?)液体(?)と思しきところを斬っていたみたいなのが好になっていました。

すると、その切断面の亀裂から、こんどはまぶしい光が照らし出されたかと思えば、その中から二つの影が現れて……

:

:

:

と、冒頭にあるこの状況につながります。

いや、まだ目の前に、大きな黒い水塊というか、気色悪い肉片？液体？というか、その中に、リーダーらしき顔が浮かび上がっている存在が、すごい形相で襲い掛かっ……

「邪魔しないで！」

「邪魔ですね……」

何か、抱き着かれた二つの存在から放たれた攻撃？

一つはよくわからない斬撃みたいなものに細かく切り刻まれ、もう一つの方はといえば、細切れにしたモノ？を極太の光線（？）みたいなものによって、綺麗に消えては、晴れ晴れとした青い空を作っていました。

周囲にいた同業(?)の人は、何が何だかわからないままな表情をしてましたが、自分も、結局何が何だかよくわかりませんでした。が、

「強くなったでしょー!褒めて褒めてー!!」

「テイル、それは他のの方が力を貸してくれているからで……」

「マーマうるさい!パーパのところに戻って来れたんだから、いいじゃない」

《なっ?!ママにパパじゃと!?聞いておらん!聞いておらん!聞いておらん!!》

「ですが、テイルの力だけでは、この道は開けなかつたですよね?」

「む、そうだけど……けど、今はそれでもいいじゃないパーパがいるんだから」

《いや、さて、正式に契り得たのは、この伊都イツノ之尾羽張オノハバリであるからにして……》

……とりあえず、よくわかりませんが、終わった。

という事で良いのではないのでしょうか?

あと、『かましいかましい』という漢字の意味が理解できたという事も付け加えておきます。

追伸：

嫌な予感が微かに残っていたので、その感じがする方向に近づいていくと、リーダー格の人が儀式か何かやっていた祭壇らしき物に淡く光る物体がありました。これ、壊さないとマズかったりするのかな？と思いつつ、何気なく手に取り、ビリツと何か電気が流れた感覚と”それに触れるでない！”という言葉が同時に、思わず、拾い上げた手からこぼれ落としては、落下していった玉が地面に触れ、

粉微塵に吹き飛び……

え……？

粉微塵に吹き飛び……びび？

（ A、；）：まさか、そんなコト、アルハズハ…

EP7 : ほらあ……ファンタジー？

(—A 。 ; ; ) : 帰ってからも、疲れとれない……

寒さのきびしい日が続き、小雪のちらつく日もある昨今ですが、いかがお過ごしでしょうか。

タカシです。

あれから一年近くがたちました。

業界内でのお家騒動的な事で決着がついたとの連絡があり、自分にもそのお詫びと称して、何らかの便宜を色々と図ってくれるとのこと……

二人が帰ってきたという事は、現代社会においては色々問題があると思います。

例えば、戸籍とかそういうのが……

駄目でもともとと思いい、思い切ってはそういう事に関しての何らかの手続き関連を全



部お任せする事と、手狭になるであろう現在の住処からかけ離れた高額なマンション住まいを希望してみました。

通りました……。

二人の戸籍も手に入りました……。

この世の中、どうなつてんの？と思いましたが、「餅は餅屋です」という事で濁された様な、そうでもないような……

なお、二人の苗字が自分と同じなのは、どういう事なんでしょうか？

えっ？管理責任があるから？都合もあるから？いや、そこは別にしてもかまわ……

二人の威光？意向？……そういうのを察したので、それ以上はやめておきました。

新居に関しては、イニシャルコストなどの経費云々をあちら持ちで結論が付きました。

場所は、某一等地すぎる場所にそびえ立つ代物です。

そびえ立つ代物です……

業界、恐ろしい所……

一通り、そういう事を経験しては、今は一人暮らしていた一般的なマンションから、高額マンションへと移り変わりました。

なお、家賃の月数十万は自腹で行わなければならず、結局、業界の人の依頼を優先的に受けざるえないという事で……

今まで働いていた職場を依願退職しては、その業界の仕事一辺倒となっていきました。

そもそも、家賃で給与が全部吹っ飛びかねない金額と、その金額すらも余裕でカバーできる新規の業界のお仕事と比べたら、そうせざる得なくなつたわけとも言います。

ただ、その仕事内容が、昼夜問わず依頼があれば請け負うという仕事をこなしていったある日……ふと思いました。

あれ？前の職場よりも、”働く環境が悪くね？”と

ふと、転職後に経験している、いままで仕事内容を振り返ってみると……

平日だろうと休日だろうと定時なんてものは存在しません。物によって徹夜だってあります。

空いた日は寝る事がほとんどで遊ぶなりの予定を組める余裕がありませんし、そんな日に急ぎの連絡があれば、期日までに妖案件を解決しておくことにもなれば、休める日すらなくなります。

最悪、同時進行で十件以上もひと月の間に依頼としてだされ、日本全国津々浦々、業界の人と一緒に行動する羽目もありました。

あれ？

高級マンション住まいでも、津々浦々に移動してたら、そんなに住んでない気が……？

それでも家賃払わないといけないし……

というか、住んでる意味、あるのでしょうか？

・  
・  
・

考えないようにしましょう。

そうして、一年以上、そういった生活を続けていました。

そうそう、レイの方は留守番してもらっていますが、いつの間にかやらスケジュール管理を行うようになり、今では秘書的な仕事をこなしています。

そして、いつの間にか免許を取得しては送迎を……？

なぜか特殊と大型と牽引に自動二輪と、全部運転できる？フル免許とってるの？  
あと、スケジュールがぎっしり詰まってるのをキツチリ進めるのも不思議で……  
え？秘書検定受けてたって？いつ取ったの？そんな余裕あったの？

……まあ、レイの事はおいておきます。

電脳世界などで色々と調べていたりしますし……

そして、テールの事ですが、業界人が経営する私立高校に通っています。

あの事件のお詫び？で学費は免除となって助かっています。

そのテールも、自分がようやくマンションに帰ってきた時、「おかえり!! パパ!!」とい

う言葉と共に、体当たりとベアハッグをさせていただきます。

ただ、全力の突進と締め付けが、疲れた体に行ってくるのはやめてください……  
いまも、やられています……このまま続けられると死んでしまいます……

成長したテールの姿は、どこからみても綺麗な清楚系の大人の女性という姿に変わりはじめており、何でも芸能の方の業界の人からも、スカウトがあつたらしいほどだそうです。

ただ、本人は乗り気はまったくないために、そちら方面に行くことはなく、仕事業界の方へと進むために、学校に通う事にしたそうです。

学校の成績はというと、一般的な身体能力に関しては問題ないのですが、学力に関しては魂が混ざった存在を活用してか「ズル」をして……好成绩をたたき出しては、褒めてとその結果を見せに来ました。

だから、ズルはダメだと……え？してない？教えてるだけ？

オウルさんがそうおっしゃるのなら……はい、勉強の指導お願いします。

そんな事を、目覚めた融合された魂の一つのオウルさん（フクロウの頭してる方）か

ら勉強を教わったの結果だったみたいです。

そんな疑いをかけたやりとりをしていたら、頬を膨らませて怒っている仕草をし、両手で叩いてきたりと、見た目清楚系のわりには、結構活動的とでもいうか……

いや、それより、先ほどからのペアハッグが決まりすぎてて、息が……

ちよ……まつて……勉強を疑ってすいません、いや、止めて、マジで

許してください、なんでも……

いや、何でもとは言ってませんよ？何でもとは？一緒にお風呂？いや、年ごろの娘さんがそういうのはダメでしょ？

だから、さらに力いれて……顔をそんなにこすりつけてきたら、息が……ちよ……

(ゴキッ

アビヤ?!

・  
・  
・

追伸：

気が付いたら、医療系の様な個室でベッドの上でした。

枕元の袖机そでつくえには、カタカタと震えるハバリさんがいます。

ただただ背中と胸にある痛みの方がきつく、身動きというののできないです……  
痛いし、苦しいし……

（—A。；；）：帰ってから、疲れとれない……

( , A 、 ) …… ”細胞 (バイオ) ” が ”危険注意 (ハザード) ”なヤーツー

病室の窓から見える風景の中で、遠くに見える山々の紅葉に変わっていく中、いかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

病室。

それも個室という広い箱部屋の中で、ただただ時間が過ぎ去っていくというのを体験させていただいております。

あれから、身体が動かせないという事で、救急車によつて運ばれては、全治4か月、安静に2か月は必要だという事で、ガッチガチに動かせれない状態という事だそうでした。



医者が仰るには……

肋骨数本、完全骨折4ヶ所、一部、内臓を傷つけてる力所あり

背中、鎖骨が不完全骨折。

背中、椎弓が不完全骨折。神経圧迫あり。

腰骨、不完全骨折3ヶ所

そして、笑いながらも”よく生きていたもんだね……”と、驚きやら、呆れやらの表情をされました。

実は、かなりの重体であつたみたいです。

”まだまだ、鍛錬が足りぬ証拠じゃ”と、聞こえてきます。

ハバリさん？骨の場合は、鍛錬云々必要あるのでしょうか？

え？筋肉で守れば良かるう？いや、そのですね？それはそれでどういう理論かと思う訳で……

そういえば、とてつもない痛みがあるという事だったので、現状は耐えれない痛みでもなく……というか、痛み止め飲んでません……ね？あれ？と思ったのですが、

「苦しそうでしたので、痛みの信号を遮断・緩和をしておきました」

……レイさん、何してくれてたのでしょいか。

痛みは体の異常シグナルなのに、なぜ止めるのだろうかと問うと

「その、主殿のつらそうなお顔が耐え難く、一度、一体化してからの処方……」

OK、理解した。

頬を染めながら、それ以上の言葉を言っちゃいけない。

なお、テイルは反省してるのか、あれ以降、身体に触れようとはしなくなつたが、いつも悲しそうな瞳で見られるのは、何というかちよつと心に響くというか……

そんな風に思っていた自分がいました。が、

ひと月もたつと、学校帰りに必ず寄つては、一日あつた事を面白おかしく話してみたり、

休みの日などは不器用ながらも甲斐甲斐しく世話をやこうとしてくる姿に、まあ、あんな瞳を向けられるよりかはマシだろうと。

ただ、勉強道具一式やら宿泊用の道具などのお泊りセットを持ってきては、「ここに泊まる！」と主張し、レイに小言という名の説教を何度ももらっては、連れて帰っていくというのを何度も経験しているにもかかわらず、再度チャレンジしてくるのは、いかななものかと……

というか、レイさん？あなたもですよ？昼間はほぼ付きっ切りになっていませんか？

え？”テイルが学校に行ってる間は、わたしの時間です”？

いや、ね？そういう事ではなくてですね……？

まあ、マネジメントというか、マネージャーとしての手腕も身につけられてるので強く言えませんが。

そういうえば、診療代はどうなるんだろうかと聞いたことがあります。

個室をとってるから、日割り計算もとんでもな金額と思っていたら、そういう業界対応の病院との事で、なんでも、多大な献金や協力が入っているから、別棟はそんなに高

くはない安心してほしいとの事。

業界、恐ろしい所……

それからは、業界の方には長期休養休暇という事として、しばらくは動けないという事にもなり、ゆつくりとした休養がとれる形が続ぎ、ようやく一人で起き上がれるようになり、リハビリを経過しては歩けるまでに回復しました。

ようやく、一人で移動もできる様にもなり、自己リハビリも兼ねては病院内を徘徊する事になっています。

そうして、夜中に自販機へと何か買いに行くかと、部屋を出た時に気づくべきでした。深夜にも関わらず、看護師がいるはずの場所に、誰もいなかったことに。

そして聞こえてくる「ウー~~~~ア~~~~ア~~~~」(複数)というBGMに加え、この先の通路を曲がった向こうから、「クチャクチャ」と、まるでナマモノを食べているような咀嚼音が聞こえてきてます。

このBGMと、咀嚼音から推察するに……

……気にしない事にしたいです。

大事なことなのでもう一度いいますが、”気にしない事”にしたいんです!!

追伸

業界的な指南で、確認を怠ると、その後、悪い状況になる可能性がある。

という、先輩方のご指導のおかげで、仕方なく、否応なく、曲がった通路の先を覗いてみようと思ひ、そろりそろりと近づきますが……

徐々に見えてくるのは衛生重視のはずなのに、血痕というか血糊というか、ぶちまけられた様な様相になっています。

そして、壁からこつそりと除くように、通路の先をのぞき込むと……

そこには、薄暗い照明にてらしだされて、人らしきモノが……二つ。

一つは床に対して仰向けに寝そべるようにピクリとも動いてません。  
が、もう一つはというと、その仰向けの腹のところで咀嚼音をさせながら……

( , A , ) : …… ”細胞<sup>バイオ</sup> ”が ”危険注意<sup>ハザード</sup> ”なヤーツー

、A、。ただ、バッテリーがね？結構ヤバイです……

### 背景

音のない白い世界という時期に、暖をとるためにつけた火の色が、目に映し出される時節、いかがお過ごしでしょうか。

タカシです。

バイオが崩壊する例の振り向き某シーンにならないよう、また、他の嫌な気配のある所を避けながら、結構迂回するかたちで病室に戻ってみると、そこには先客が一人おられました。

看護師姿で”ようやく戻ってきたか”と、呆れて此方を見てくる女性が……

……あ、これ、雰囲気から察するに、ハバリさんですよね？と思いながら見ていたら、  
りよはん 同伴だというのに、気づくのが遅いぞ”と、さらに呆れた表情をされました。

そして”では、いくぞ”と、こちらの腕をつかんで引きずられる様に、病室から引つ張り出されます。

え? 一体どこに? と、問いただしてみるも、”異常な怪異によつて、黄泉へと穢れ始めておる、早急に対応せねば、現世が不味い”と、ただ、これは人為的な何かがあるとの事で、その原因? 元凶? を糺すしに行くとか何とか。

そう言われてハバリさんはドアを開け放つては、どんどん先へと進んでいきます。自分は、連れ出されるままに、引きずられる様な恰好で……

というか、自分で歩けますから、そろそろ腕を引つ張るのは、えっ? 腕を組みたい? 久しぶりの肉体だから? いや、その、まあ、いいですけど、本人じゃないですが、いいのですかね?

道中、ハバリさんからさらに説明をうけると、人為的に”屍鬼”化された存在たちにより、黄泉へとたどり着けなかつた魂の残滓が、さらに悪影響を及ぼしては集まりだしては、異形の形にへと変貌しはじめて、さらに厄介な事になりはじめているという。



そうして、這い出てくる不死者<sup>ゾンビ</sup>を、看護師姿のハバリさんが実態化した古代刀(？)でバツサリです。

次に出てくる、これまたバールの様な物を持った看護師の制服姿のヒトガタや、よくわからない血濡れの被り物をしているオッサンに、うごめく肉体や赤子の顔をした何か？、素早く動くクリーチャーみたいな何か、虫とナモノを混ぜたようなクリーチャーだったり、血濡れのアトラクションの着ぐるみだったり、などをバツサバツサとさつくりと切り倒しては進むという恰好になっています。

そしてここにかけて、ようやく気づきました。

あ、これ、細胞<sup>バイオ</sup>の方じゃなくて、静かな<sup>サイレント</sup>の方だわ……と。

ただ、そういう風に冷静に分析できはじめるぐらいには、業界の世界に長く浸る事で培った耐性、こういうスプラッタというか、怪異の異形にも驚かなくなっている自分を確認出来て、何というか……狂ってきてるんだなあと、感じてしまいました。

というかハバリさん？その方の身体使ってますけど大丈夫なんですか？

えっ?一時的に依り代として借りてるに過ぎない?大丈夫なんですか?(後日の筋肉痛的な意味で) 助ける事を前提に了承を得ているから大丈夫……と?

”今の貴様の身体を使えば、傷が癒えぬどころか、悪化するかもしれないからな”

氣遣つてくれてるならば、いつも、あの身体を酷使されるのをやめていただきたいかなと思つたり思わなかつたり……

それよりも、本当にそういう行為は良いんでしょうか……

”命は助けてやるんじゃないからの、十分じやる”

ああ、やっぱりあの憑依(?)をされた翌日の筋肉痛(筋を痛める事もある)を経験するのが確定ですか……カワイソウニ……

そうこうしながら、階段をつかつては地上に出ます。

ここも、不<sup>ソ</sup>死者<sup>ン</sup>やら、悪<sup>ヒ</sup>霊?怨<sup>ビ</sup>霊?クリーチヤ?がたむろつてましたが、これらもハバリさんがバツサリと切り捨てて道を作つては、別の別館の1階まで進んできました。

というか、何でこちらを襲ってくるのでしょうか?と尋ねると、”生者の魂に集まつてるにすぎん。あとは無くならぬ餓えを凌ぐ為じやな”と、いうなれば、自分が羽虫を呼び込む提灯みたいなもの?なんででしょうか……

そうですか、自分、そういう役割だったんですね……

そういえば、出てくる不死者の存在たちは、元は人なのでは？と思っていたのですが、”巻き込まれて死して異形化してしまつておる。魂の方も穢れてしまつておるしの……。せめてワシが黄泉へと送る方が、輪廻の輪には乗りやすくなるじやろ。ワシが出来る中で”最大の慈悲”という奴じや……”

との事だそうです。

ハバリさんも”人の業に振り回されおつて……”と、悲しそうな表情をしていたので、それ以上は何も聞かずにすみました。

そうして、”ついたぞ”と言われた先は、もう一つの別館となる、地下2階になるのでしょうか。

歩みが止まった先にはガラス部分で向こう側が見え、両扉で開く扉がある場所。この扉はアレです。

ストレッチャーがそのまま走り入る構造になっている扉で、ストレッチャーが当たる所に金属補強がされている扉という奴。

” 覚悟はできとるな? いくぞ ”

と、こちらが肯定するまえに、ふたたび腕をひつつかまれては、こちらの心境や心構えの事はおかまいなく、その扉を開いて中につれ……?

ん? 青い壁? 天井? 床?

なんとも言えない青い空間とでもいうのでしょうか……?

あの扉の扉部分から覗いていたのは、普通の病室の通路だったと思っただけですが、扉を開けた先は、まったく異なっている通路があらわていました。

そんな青だらけの通路? 空間を、ハバリさんに腕を引っ張られながら歩き続けた先に、ポツンと白い何か……いる?

” ようやく、面通しといったところか?”

という事は、この状況の元凶という事でしようか。

よく見てみると、ただ単に奥の壁を背に体育座りしている、病院服を着ているブロン

ド姿の子供の様な存在が、膝を抱えて座り込んでいるだけなんですが……

白い病院服を着てるから、入院患者だったのかな？とは思うんですけど……

それよりも、その背後に強烈にヤバイ雰囲気を感じる存在がいます。

そもそも、何ですかね、でっかい上半身だけの人、しかも、目と口とかが縫い合わされている様にも見え、その存在が壁にさらに縫い付けられるように張り付いては存在しています。

”あの背後の奴が今回の元凶じゃな……手前のは、原因の一助といったところかのか？さて、どうしたもんか……”

と、ただ、ハバリさんとしては、悩みどころといった表情をしていました。

たしかに、何かしらの嫌な感じと、そうでない感じが入り混じっているといたるところでしょうか。

まるで、蹲っている方の意思とは違うとでもいった感じを受け取ります。

いや、そもそもこれからどうすればよいのでしょうか。

見るからに傷もない腐ってない身体を見れば、相手は生身の人間。

つまりは生存者という点は理解できますし、助け出すべきではあると直観は伝えてきています。

ハバリさんも、距離を取っては、簡単に切つて捨てるという訳にもいかんか……”と悩んでいます。

たしかに、その背後の存在が異様に、強烈に強すぎる気配がしますが……

それよりも、重大な事に気づきました。

ヤバイです。自分たちだけでは解決できそうにないかもしれないかもしれません。

相手もこちらに気が付いたのか、顔を上げて何かを訴えようとして来ましたが、自分としては嫌な予感しかしません……

「He prihodi!」

やはり日本人ではありませんでした。

追伸

こんな時は落ち着きましょう。

通訳がいなくても何とかあります。

そう、この果物マークのスマートフォンならね。

最近の翻訳アプリはすごい代物になっております。

海外出張先の会話も音声翻訳もしてくれます。

これが文明の利器というもの、なんでしょうが……

（A、；）：ただ、バッテリーがね？結構ヤバイです……

( ^ ρ 。 )

ガラス窓の内側に、室内と室外の気温差によってできる白い水滴が、薄い膜を作っては、すりガラスの様に外の景色を背無くする時分、いかがお過ごしでしょうか？

タカシです。

とりあえず、情報を引き出す為に、バッテリーの続く限りの会話を試みます。  
わかった事。

その一、名前がユーリーと。

その二、集める？ 収獲する？ 変換不可の言葉

その三、電話？

その四、掴む？ 捕える？

その五、変換不可の言葉の羅列？



う、うーん……さっぱり意味が分かりません。

とうとうバッテリー切れたスマホの翻訳機で分かった言葉といえばこれぐらいでした。

あと、ぱつと見だと、背後にあるナニカに捕まった事を、電話でどこかに連絡しようとしていたのでしょうか？

ただ、背後にいる上半身から上だけ、壁にめり込むように存在するのは……嫌悪感がとてつもなくわいてきます。

ハバリさんが観測するに、この背景は“異なる世界の神に連なる、神格を持ったナニカ”だそうです。

と、ハバリさんの見解で、そういうナニカだというのはわかりましたが……どうすればよいのでしょうか？

神格を持ったナニカですか……

しかも、異なる世界の……すごく嫌な予感しかしませんが……

「ハバリさんも」下手に刺激をして、この世界にどう影響を及ぼすのかが読めん。厄介なヤツを呼び出してくれたわ」と、愚痴ってくるレベルです。

それに続いて、今もあの神に連なるモノの世界化、つまり自分たちからしたら異界化している空間が広がりつつあるそうで、それでも何とか抑え込んでいるのは、あのユリーさんのおかげでもあるだろうとの事です。

実際、そのハバリさんの剣で何とかならないかと聞いてみましたが、”斬る事は余裕じゃな。ただそうすれば、還す事が出来ん”という事です。

こういった、自己中？の神様モドキの輩は、元の場所に”還す”のが後腐れもなく物事が収まるとの事です、元の場所にどうやって還すのかが、てんで分からないとの事だそうです。

そして、何か手がかりがないかとハバリさんと一緒に、周囲を見渡したりで、探しては見ていますが、それらしい手がかりすらなさそうです。

さらに不味い事に、ユリーさんが依り代となつて何とか抑えている感じとの事です、人では簡単に抑えられるモノでもないのに、それを無理やりに抑えている感じとの

事と、それも、そろそろ限界がきそうである感じとの事です。

どうしたものとと思案にふけますが、悠長にそんな事をしていたら、ユウリーさんの精神と体力が持つとも思えません。

先ほどから、どこかしら辛そうにされており、ハバリさんも”神に連なるナニカの精神汚染され蝕まれておる……このままでは、人としての人格も壊され……傀儡と化してしまうかもしれん”と、

どうやら、一刻の猶予もない状況みたいです。

どうしたモノやらと困りはてていた時、ふと、自分のポケットにしまい込んでいたモノが光っているのに気づきます。

そういえば、レイさんが家に置いてあったあの時の紫の球体を、何かがあるかもしれないので、お守りとしてと肌身離さずもつていてほしいと言われて、あの業界に入つてからはお守り風にもつていましたつけ。

その玉が、今までこんな雰囲気を出してきた覚えはなかったのですが……

しかし、ハバリさん曰く、それは異界のモノ、つまりこの世界とは違うモノの為、これを介して異界への門を開けば、上手く行くかもしれないとの事で作戦会議です。

1 : ハバリさんが陣と印を構築する。

2 : ハバリさんが繋がりを断ち切る。

3 : 自分があるのユーリーさんを引きはがす。

3 : この玉を相手に飲み込ませる。

飲み込ませるのは自分の役目、印の意地にハバリさんが手が出せなくなるからとの事と、この紫色の玉は、自分の近くでないと発光しなかつた事が確認できたためです。

一刻の猶予もないので、さっそく作戦開始です。

あやかし  
妖案件のせいとか、今まで経験したこともないとしてつもなく嫌な警告的な気配や気分

がしますが、度胸はついてしまったのか、無理やりこういう事が出来る感じがします。

それに、こちらの意図を察してくれたのか、ユーリーさんが最後の気力か、抑えてくれているので近づくのはたやすくできただけなのですが。

そして、さらにとてつもなく嫌な予感が増えてはきていますが、これをしなければならぬのならばと、そして、ユーリーさんをしっかりと抱きかか……

その時、背景だったはずの顔の目が、いや、目が口で、口は目で、口に目で、目の口で、あがあて

”いかん!!!”

.....

追伸：

.....

.....

.....

.....

.....

$(\hat{\rho}_o)$ 

.....

.....

「大丈夫だよ、パパ。」

うん、そう、左手にこう……わるーい奴だけを懲らしめるように、ぎゅーつと握りこんで」

「主殿、もう少し右です。はい、その位置あたりで」

「ママのいった所に、思い切って……バーン！ って、やっちやえ!!」  
「いまです!!」

パァン!!!